インテリジェントスイッチ

Business Switch
リファレンスガイド

このたびは、弊社製インテリジェントスイッチをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
本書は、メニューインタフェース、CLI コマンドについて説明しています。必要に応じてお読みください。

■ BUFFALO™ は、株式会社バッファローの商標です。本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。
本書では ™、®、© などのマークは記載していません。

■ 本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、改良のため予告なしに変更される場合があり、現に購入された製品とは一部異なることがあります。

■ 本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、お買い求めになった販売店または弊社サポートセンターまでご連絡ください。

■ 本製品は一般的なオフィスや家庭の OA 機器としてお使いください。万一、一般 OA 機器以外として使用されたことにより損害が発生した場合、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

・医療機器や人命に直接的または間接的に関わるシステムなど、高い安全性が要求される用途には使用しないでください。

・一般 OA 機器よりも高い信頼性が要求される機器や電算機システムなどの用途に使用するときは、ご使用になるシステムの安全設計や故障に対する適切な処置を万全におこなってください。

■ 本製品は、日本国内でのみ使用されることを前提に設計、製造されています。日本国外では使用しないでください。また、弊社は、本製品に関して日本国外での保守または技術サポートを行っておりません。

■ 本製品のうち、外国為替および外国貿易法の規定により戦略物資等（または役務）に該当するものについては、日本国外への輸出に際して、日本国政府の輸出許可（または役務取引許可）が必要です。

■ 本製品の使用に際しては、本書に記載した使用方法に沿ってご使用ください。特に、注意事項として記載された取扱方法に違反する使用はお止めください。

■ 弊社は、製品の故障に関して一定の条件下で修理を保証しますが、記憶されたデータが消失・破損した場合については、保証しておりません。本製品がハードディスク等の記憶装置の場合または記憶装置に接続して使用するものである場合は、本書に記載された注意事項を遵守してください。また、必要なデータはバックアップを作成してください。お客様が、本書の注意事項に違反し、またはバックアップの作成を怠ったために、データを消失・破棄に伴う損害が発生した場合であっても、弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■ 本製品に起因する債務不履行または不法行為に基づく損害賠償責任は、弊社に故意または重大な過失があった場合を除き、本製品の購入代金と同額を上限と致します。

■ 本製品に隠れた瑕疵があった場合、無償にて当該瑕疵を修補し、または瑕疵のない同一製品または同等品に交換致しますが、当該瑕疵に基づく損害賠償の責に任じません。

目次

初期設定

IP アドレスの設定

スイッチの IP アドレスを設定する手順を説明します。
設定画面への接続方法は、次の 3 通りがあります。

- コンソール接続(ハイパーターミナル)
- ネットワーク接続(TELNET)
- ネットワーク接続(Web ブラウザ)

本書では、「コンソール接続(ハイパーターミナル)」と「ネットワーク接続(TELNET)」での手順を説明いたします。

メモ Web ブラウザから接続する場合は、「導入ガイド」を参照してください。

設定画面へログインする前に

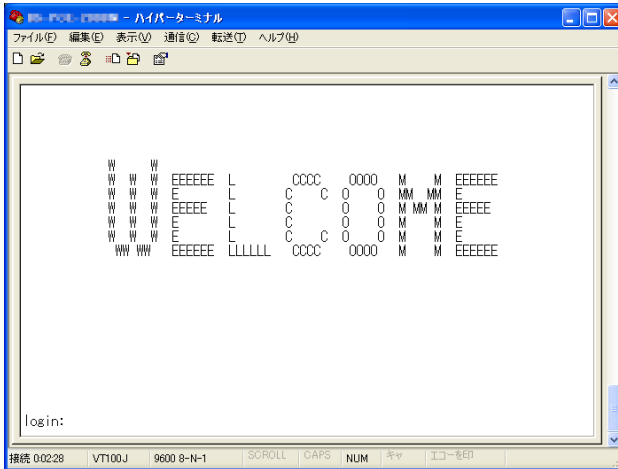
設定画面にログインする前に、準備が必要です。次の手順で準備をおこなってください。
「コンソール接続(ハイパーターミナル)」と「ネットワーク接続(TELNET)」で手順がことなります。該当する項目をご覧ください。

コンソール接続(ハイパーターミナル)

1 スイッチと設定用コンピュータ(または VT100 互換ターミナル)を、付属のシリアルケーブルで接続します。

2 ターミナルソフトを次のとおりに設定し、スイッチにアクセスします。

- 接続方法 : COM1 など
- データレート : 9600bps
- データビット : 8
- ストップビット : 1
- パリティ : なし
- フロー制御 : なし
- エミュレーション設定 : VT100(または自動検出)
- キーの使いかた(ハイパーターミナル使用時): ターミナルキー

3 ターミナルが適切にセットアップできたら、ログインメニューが表示されます。
文字が表示されない場合は <Enter> を押してください。

ネットワーク接続（TELNET）

1 スイッチの 100BASE-TX/10BASE-T ポートと、設定用のコンピュータを UTP/STP ケーブルで接続します。

2 設定用コンピュータの IP アドレスを適切な値に設定します。

メモ　このスイッチのデフォルトの IP アドレスは、192.168.1.254（255.255.255.0）です。

3 TELNET を使ってネットワーク上からログインします。
正しく接続されるとログインメニューが表示されます。

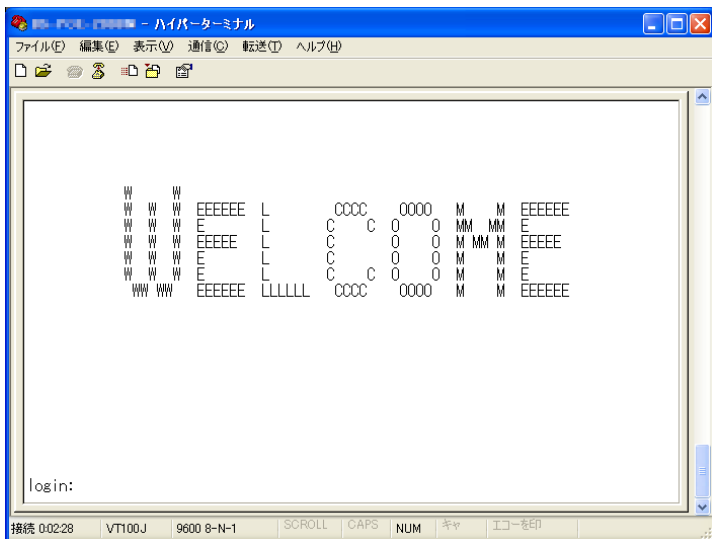
⚠注意　このスイッチは同時に 4 つの TELNET セッションをサポートします。

ログインする

スイッチへログインするときは、ユーザ名とパスワードを入力します。
デフォルトのユーザ名、パスワードは次のとおりです。

- ユーザ名　：admin
- パスワード：(何も設定されていません)

1 Login: に admin と入力し、<Enter> を押します。

2 Password: には何も入力しないで、<Enter> を押します(Password はデフォルトでは設定されていません)。
「Main Menu」が表示されます。

IP アドレスの設定

スイッチの IP アドレスは、手動設定または DHCP による自動設定で設定をおこないます。

手動設定する

IP アドレスを割り当てる前に、ネットワーク管理者へ次の情報を確認してください。

- スイッチ用の IP アドレス
- ネットワークのサブネットマスク
- ネットワークのデフォルトゲートウェイ

次の場合を例に、IP アドレスを変更します。

- スイッチ用の IP アドレス　：192.168.2.10
- ネットワークのサブネットマスク　：255.255.255.0
- ネットワークのデフォルトゲートウェイ　：192.168.2.1

設定手順は次のとおりです。

1 スイッチにログインします。

2 <A> を押して、「a. System」を選択します。
「System」画面が表示されます。

3 <C> を押して、「c. IP Configuration」を選択します。
「System / IP Configuration」画面が表示されます。

4 「IP Assignment Mode」を選択して、<Spase> を押し、「Manual」に設定します。

5 「IP Address」の値を選択して、<Enter> を押します。

6 192.168.2.10（スイッチ用の IP アドレス）を入力し、<Enter> を押します。

7 「Subnet Mask」の値を選択して、<Enter> を押します。

8 255.255.255.0（ネットワークのサブネットマスク）を入力し、<Enter> を押します。

9 「Default Gateway」の値を選択して、<Enter> を押します。

10 192.168.2.1（ネットワークのデフォルトゲートウェイ）を入力し、<Enter> を押します。

> メモ　TELNET で接続したときは、「ホストとの接続が切断されました」と表示されますので、TELNET の画面を閉じてください。

11 <Esc> キーを 2 回押します。
「Main Menu」に戻ります。

12 <M> を押して、「m. Exit」を選択します。
「ホストの接続が切断されました」と表示されます。

DHCP サーバから自動取得する

DHCP サーバから IP アドレスなどを自動的に取得するための設定手順を説明します。

設定手順は次のとおりです。

1. スイッチにログインします。
2. <A> を押して、「a. System」を選択します。
   「System」画面が表示されます。
3. <C> を押して、「c. IP Configuration」を選択します。
   「System / IP Configuration」画面が表示されます。
4. 「IP Assignment Mode」を選択して、<Spase> を押し、「DHCP」に設定します。
5. <Esc> キーを 2 回押します。
   「Main Menu」に戻ります。
6. <M> を押して、「m. Exit」を選択します。
   「ホストの接続が切断されました」と表示されます。

   メモ TELNET で接続したときは、「ホストとの接続が切断されました」と表示されますので、TELNET の画面を閉じてください。

設定の保存

スイッチの設定を変更したときは、設定内容をフラッシュメモリに保存する必要があります。保存しないと、スイッチを Reset（再起動）したときに、設定内容が失われます。
ここでは、メニュー形式の設定インタフェースを使って設定内容を保存する手順を説明します。

設定手順は次のとおりです。

1. スイッチにログインします。
2. <Ctrl> と <W> を押します。
   「Do you want to save configuration to NVRAM?」が表示されます。
3. <Y> を押します。設定内容が保存されます。

2 メニューインタフェース

メニューインタフェースの操作

ここでは、メニューインタフェースの使い方を説明します。

メニューインタフェースへのアクセス

スイッチの設定は、コンソール接続またはネットワーク接続(TELNET) でつないだ設定用のコンピュータを使って、メニューインタフェースから設定できます。

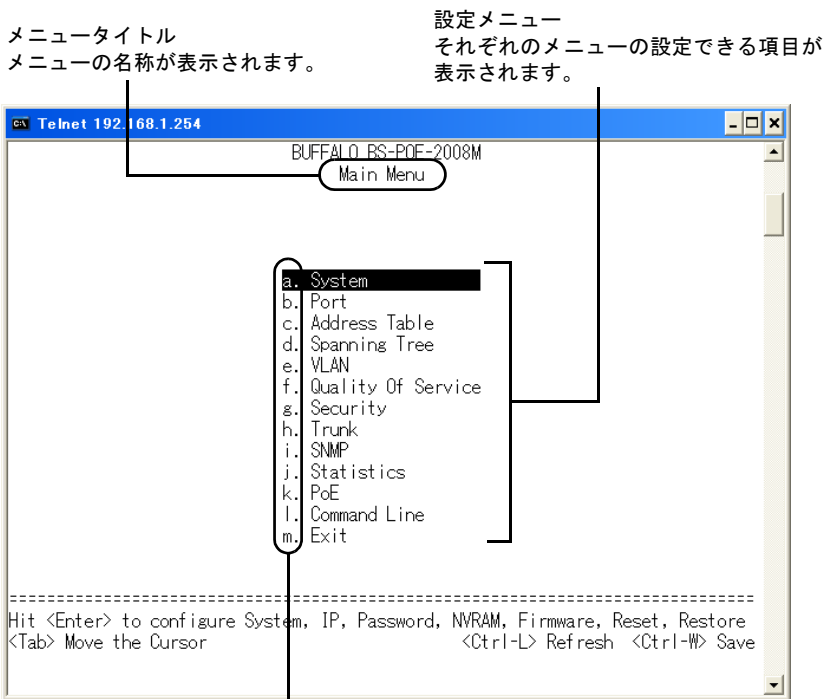
メモ
- ログイン手順に関しては、「第 1 章 初期設定」(P.7) を参照してください。
- この章では、BS-POE-2008M の画面を使って説明しています。

メニューインタフェースの見方

メニューインタフェースでは、次のような画面が表示されます。

メニュータイトル
メニューの名称が表示されます。

設定メニュー
それぞれのメニューの設定できる項目が表示されます。

```
Telnet 192.168.1.254
BUFFALO BS-POE-2008M
Main Menu

a. System
b. Port
c. Address Table
d. Spanning Tree
e. VLAN
f. Quality Of Service
g. Security
h. Trunk
i. SNMP
j. Statistics
k. PoE
l. Command Line
m. Exit

================================================================================
Hit <Enter> to configure System, IP, Password, NVRAM, Firmware, Reset, Restore
<Tab> Move the Cursor                          <Ctrl-L> Refresh  <Ctrl-W> Save
```

設定メニューのアルファベットを入力して、設定を行います。

メニュー階層

メニューインタフェースのメニュー項目と体系は、次のとおりです。各メニューの説明は、それぞれのページを参照してください。

Main Menu	内容
System メニュー	
システム情報の表示 (P.16)	システム情報を表示します。
システム情報の設定 (P.18)	システム情報を設定します。
IP 情報の設定 (P.19)	IP アドレスに関する設定を行います。
パスワードの設定 (P.20)	ユーザ名、パスワードの設定を行います。
ユーザ認証（RADIUS）の設定 (P.21)	RADIUS 認証の設定を行います。
SNTP の設定 (P.22)	SNTP 機能に関する設定を行います。
Syslog 転送設定 (P.23)	Syslog に関する設定を行います。
ログ情報 (P.24)	ログ情報を表示します。
設定ファイルの保存／復元 (P.25)	設定ファイルの保存復元を行います。
ファームウェアの更新 (P.26)	ファームウェアのダウンロードを行います。
設定初期化 (P.27)	工場出荷時設定に戻します。
IP アドレス以外の設定初期化 (P.27)	IP アドレス以外を工場出荷時設定に戻します。
再起動 (P.27)	再起動します。
設定内容のフラッシュメモリへの保存 (P.27)	設定を保存します。
Port メニュー	
ポート情報表示 (P.28)	ポートの情報を表示します。
ストームコントロール設定（BroadCast,MultiCast）(P.30)	ストームコントロールを設定します。
ポートミラーリング設定 (P.31)	ポートミラーリングを設定します。
Address Table メニュー	
静的アドレス設定 (P.32)	静的 MAC アドレスを設定します。
ダイナミックアドレス設定 (P.33)	MAC アドレステーブルを表示します。
スタティックマルチキャスト設定 (P.34)	静的マルチキャストアドレスを設定します。
スタティックマルチキャスト情報表示 (P.35)	静的マルチキャストアドレスのメンバポートを設定します。
MAC アドレスのエージング時間設定 (P.36)	エージング時間を設定します。
Spanning Tree メニュー	

ブリッジ設定 (P.37)	STA の全般的な設定をします。
ポート設定 (P.39)	STA のポート設定をします。
VLAN メニュー	
プライマリ VLAN 設定 (P.40)	VLAN の作成を行います。
プライマリ VLAN メンバー設定 (P.41)	VLAN のメンバを設定します。
VLAN ポート設定 (P.42)	ポートの VLAN 設定を行います。
Quality of Service メニュー	
出力キューモード設定 (P.43)	キューモードの設定を行います。
トラフィッククラステーブルの設定 (P.44)	トラフィッククラスのプライオリティキュー割当を行います。
トラフィックポートのプライオリティ設定 (P.46)	ポートの優先度を設定します。
レイヤー３のプライオリティモード設定 (P.47)	IP パケットに対する優先度の動作モードを設定します。
IP Precedence 設定 (P.48)	TOS-IP precedence 設定を行います。
DSCP の優先度表示 (P.49)	Diffserv（DSCP）設定を行います。
Security メニュー	
IP フィルタリング設定 (P.50)	IP フィルタの設定を行います。
VLAN の管理設定 (P.51)	管理 VLAN を設定します。
ポート認証設定 (P.52)	ポートの認証設定をおこないます。
セキュア MAC アドレス (P.54)	MAC アドレスフィルタリングの設定をおこないます。
Trunk メニュー	
トランク設定 (P.56)	トランクを設定します。
SNMP メニュー	
コミュニティテーブル設定 (P.58)	コミュニティ名を設定します。
ホストテーブル設定 (P.59)	SNMP ホストの設定を行います。
認証トラップ設定 (P.60)	SNMP トラップの設定を行います。
Statistics メニュー	
統計情報表示 (P.61)	統計情報を表示します。
統計情報のクリア (P.62)	統計情報をクリアします。
PoE Management メニュー＜ BS-POE-2008M のみ＞	
PoE 管理設定 (P.63)	PoE の設定を行います。
Command Line メニュー	
CLI モード切り替え (P.65)	CLI モードに入ります。
Exit メニュー	
ログアウト (P.65)	ログアウトします。

System メニュー

システム情報の表示

スイッチに関する情報を表示します。

⇒ Main Menu － System － System Information

※ 下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

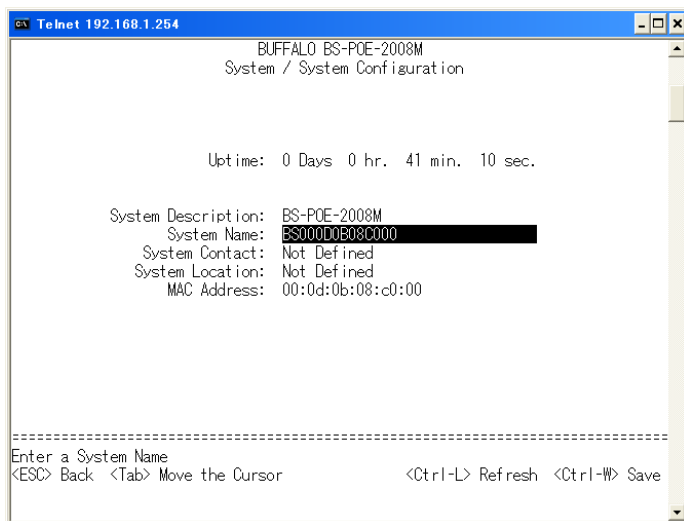
パラメータ	説明
Uptime	スイッチの稼働時間が表示されます。
System Description	スイッチの情報が表示されます。
System Name	スイッチの名前を表示します。
System Contact	スイッチの管理者名を表示します。
System Location	スイッチが設置されている場所を表示します。
MAC Address	スイッチの MAC アドレスを表示します。
IP Address	スイッチの IP アドレスを表示します。
Default Gateway	スイッチのデフォルトゲートウェイアドレスを表示します。
Subnet Mask	スイッチのサブネットマスクを表示します。
Hardware Version	ハードウェアバージョンを表示します。
Boot Code Version	ブートコードのバージョンを表示します。

パラメータ	説明
Firmware Version	ファームウェアのバージョンを表示します。
System OID	OID を表示します。

システム情報の設定

スイッチを識別する情報を設定します。

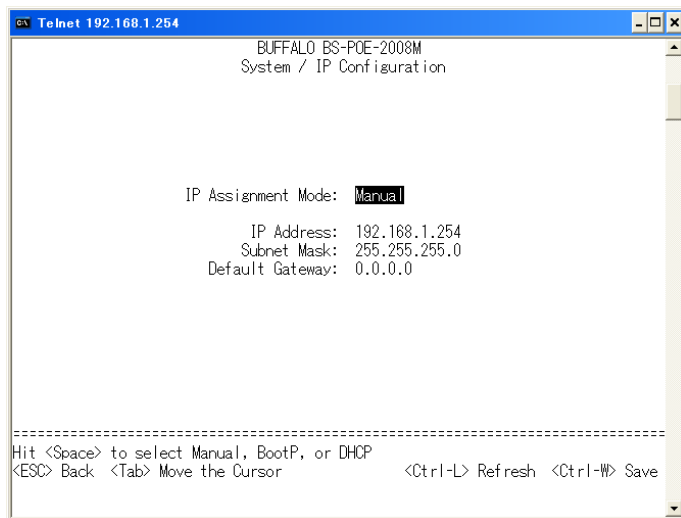
⇒ Main Menu － System － System Configuration

※ 下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
Uptime	スイッチの稼働時間が表示されます。
System Description	スイッチの情報が表示されます。
System Name:	スイッチの名前を設定します。（半角英数字、”-”（ハイフン）､”_”（アンダーバー）で 63 文字以内）
System Contact	スイッチの管理者名を設定します。（半角英数字､”-”（ハイフン）､”_”（アンダーバー）で 63 文字以内）
System Location	スイッチが設置されている場所を設定します。（半角英数字､”-”（ハイフン）､”_”（アンダーバー）で 63 文字以内）
MAC Address	スイッチの MAC アドレスが表示されます。

IP 情報の設定

スイッチの IP アドレスなどを設定します。

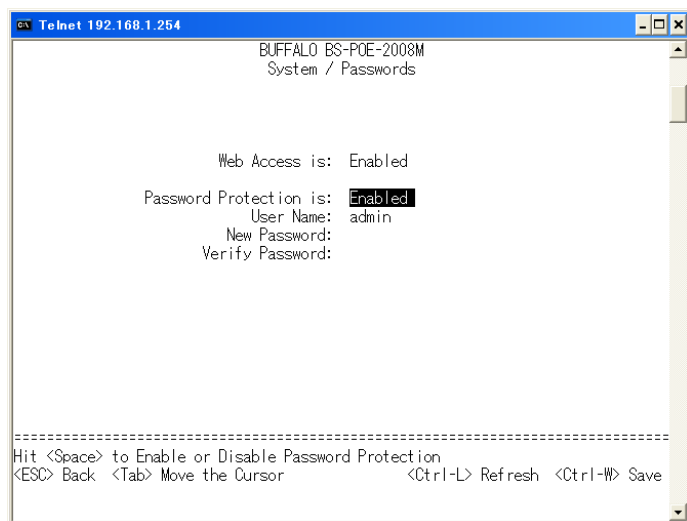
⇒ Main Menu － System － IP Configuration

※ 下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
IP Assignment Mode	IP アドレスを割り当てる方法を指定します。 **Manual**：手動で IP アドレスを割り当てます。(デフォルト) **DHCP**：IP アドレスを DHCP サーバより取得します。 **BootP**：IP アドレスを BOOTP サーバより取得します。
IP Address	IP アドレスを設定します。(デフォルト：192.168.1.254)
Subnet Mask	サブネットマスクを設定します。 (デフォルト：255.255.255.0)
Default Gateway	デフォルトゲートウェイを設定します。

パスワードの設定

スイッチにログインするユーザ名・パスワードを設定します。

⇒ Main Menu ー System ー Passwords

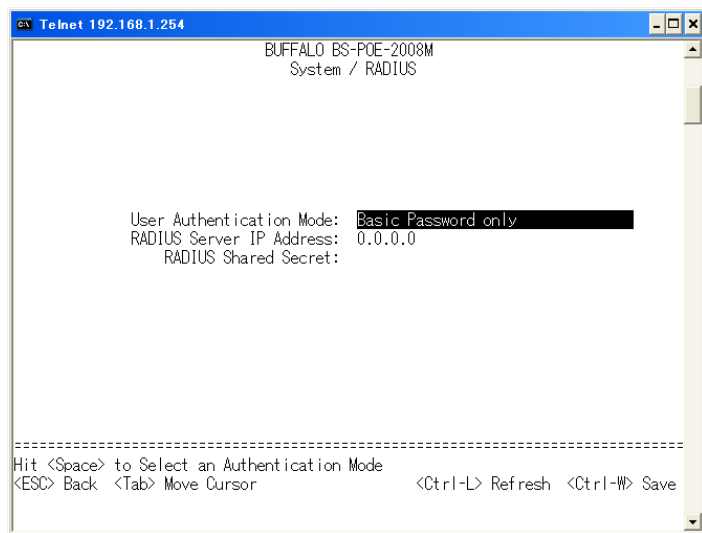
※ 下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
Telnet Access is	Telnet によるアクセスを有効または無効にします。 ※ コンソール接続のときのみ表示されます。
Web Access is	Web によるアクセスを有効または無効にします。 （デフォルト：Enabled（有効））
Password Protection is	ログインパスワードを有効または無効にします。
User Name	ログイン時のユーザ名を設定します。
New Password	ログイン時のパスワードを設定します。
Verify Password	確認のためパスワードを再入力します。

※ パスワードをお忘れになると､設定をおこなうことができなくなります｡忘れてしまった場合は､バッファロー修理センターまでスイッチをお送りください｡（有償修理）

ユーザ認証（RADIUS）の設定

スイッチへログインする際のユーザ認証の設定をおこないます。

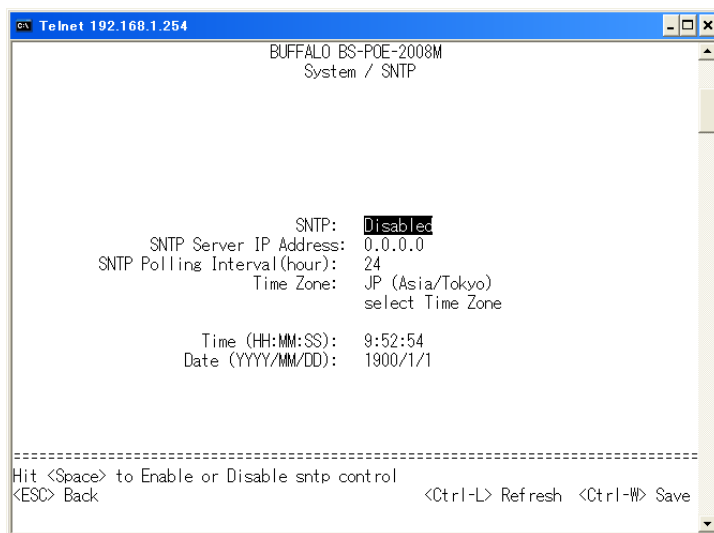
⇒ Main Menu ー System ー RADIUS

※ 下記の画面は、BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
User Authentication Mode	ログイン時のユーザ認証の方法を設定します。（デフォルト：Basic Password only） **Basic Password only:** スイッチ内部で認証を行います。 **Basic Password then Remote RADIUS:** 最初にスイッチで認証を行い認証失敗した場合は RADIUS 認証を行います。 **Remote RADIUS Only:** RADIUS 認証のみを行います。
RADIUS Server IP Address	RADIUS サーバの IP アドレスを設定します。（デフォルト：0.0.0.0）
RADIUS Shared Secret	シークレットキーを設定します。（半角英数字、”-”（ハイフン）、”_”（アンダーバー）文字まで / デフォルト：なし）

SNTP の設定

SNTP 機能に関する設定をおこないます。

⇒ Main Menu ー System ー SNTP

※ 下記の画面は、BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
SNTP	SNTP 機能の有効（Enabled）/ 無効（Disabled）を設定します。
SNTP Server IP Address	SNTP サーバの IP アドレスを設定します。（デフォルト：0.0.0.0）
SNTP Polling Interval（hour）	SNTP サーバに時刻を問い合わせる間隔を設定します。（デフォルト：24）
Time Zone	タイムゾーンを設定します。（デフォルト：JP（Asia/Tokyo））
Time（HH:MM:SS）	現在時刻を表示します。
Date（YYYY/MM/DD）	現在の日付を表示します。

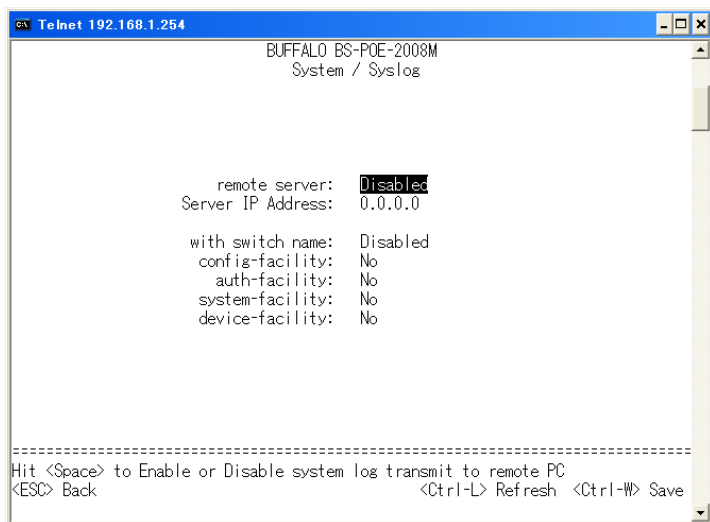
※ SNTP を使用しない場合、スイッチが起動したときに 1900 年 1 月 1 日 9 時 0 分 0 秒が設定され、この日付を起点にカウントされます。

※ 本製品の時刻は、手動で設定することはできません。SNTP サーバを使って設定してください。

Syslog 転送設定

スイッチのログ情報を Syslog サーバに転送する設定をおこないます。

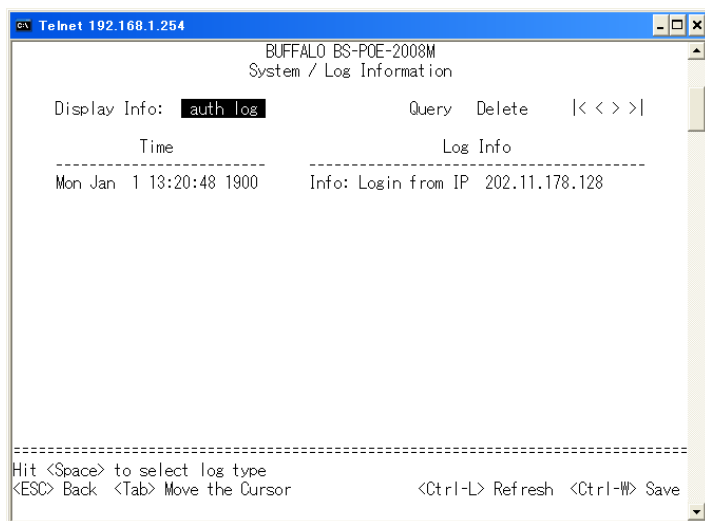
⇒ Main Menu ― System ― System Log Transmit

※ 下記の画面は、BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
remote server	Syslog 転送機能の有効(Enabled)/ 無効(Disabled)を設定します。
Server IP Address	Syslog サーバの IP アドレスを設定します。(デフォルト:0.0.0.0)
with switch name	転送するヘッダにスイッチ名を付加するかどうかを選択します。(デフォルト:Disabled(無効))
config-facility	設定に関するログで、転送する種類を設定します。(デフォルト:No(なし))
auth-facility	認証に関するログで、転送する種類を設定します。(デフォルト:No(なし))
system-facility	システムに関するログで、転送する種類を設定します。(デフォルト:No(なし))
device-facility	デバイスに関するログで、転送する種類を設定します。(デフォルト:No(なし))

ログ情報

スイッチのログ情報を表示します。

⇒ Main Menu － System － Log Information

※下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
Display Info	表示するログの種類を選択します。
Query	ログを表示します。
Delete	ログを消去します。

設定ファイルの保存／復元

スイッチの設定ファイルを保存／復元します。

⇒ Main Menu ー System ー Configuration Management

※ 下記の画面は、BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
TFTP Server IP Address	TFTP サーバの IP アドレスを設定します。（デフォルト：0.0.0.0）
TFTP Path/Configuration Filename	ダウンロードまたはアップロードする設定ファイル名を設定します。半角英数字、"-"（ハイフン）、"_"（アンダーバー）、"."（ドット）で 63 文字以内（スペースは不可）で入力します。（デフォルト：なし）
Password Save Mode is	パスワードの保存方法を設定します。（デフォルト：Encrypted） **Encrypted:** 暗号化して保存します。 **Clear Text:** クリアテキストで保存します。 **Download from server:** TFTP サーバから設定ファイルのダウンロードを実行します。ダウンロード後機器は自動的にファイルを保存しリブートします。ダウンロード及びリブートが完了するまで機器の電源を落としたり操作をしないでください。 **Upload to server:** TFTP サーバに設定ファイルをアップロードします。

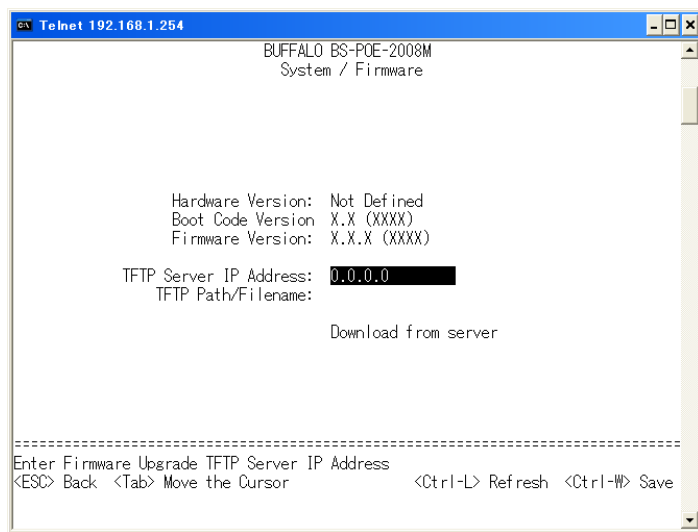
※ 設定ファイルの保存 / 復元には別途 TFTP サーバが必要です。

※ 設定を復元する場合は、スイッチを初期化してから復元してください。初期化せずに復元した場合、正しく復元できないことがあります。

ファームウェアの更新

スイッチのファームウェアを更新します。

⇒ Main Menu － System － Firmware

※ 下記の画面は、BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
Hardware Version	現在のハードウェアバージョンが表示されます。
Boot Code Version	現在のブートコードバージョンが表示されます。
Firmware Version	現在のファームウェアバージョンが表示されます。
TFTP Server IP Address	TFTP サーバの IP アドレスを設定します。
TFTP Path/Filename	バージョンアップするファームウェアのファイル名を入力します。
Download from server	本項目を選択し、リターンキーを押すと Downloading new firmware will overide current one. Proceed? Yes/No と聞かれます。Yes を選択するとバージョンアップを開始します。No を選択すると前画面に戻ります。

※ ファームウェアのバージョンアップには別途TFTPサーバを準備する必要があります。TFTPサーバの使用方法は TFTP サーバソフトのマニュアルをご覧ください。

※ バージョンアップ中は絶対にスイッチの電源を落とさないでください。バージョンアップが完了すると、画面左下に Operation complete. と表示されます。その後、Download new firmware complete.Hit <Enter> to reboot Switch と表示されますので、<Enter> キーを押してください。スイッチが再起動し、新しいファームウェアが有効になります。

設定初期化

スイッチの設定を工場出荷時の状態に戻します。

⇒ Main Menu ー System ー Restore Defaults

本メニューを選択すると Restoring defaults will cause a reset. Proceed? Yes/No と聞かれます。Yes を選択すると設定値が工場出荷時に戻ります。No を選択すると前画面に戻ります。

IP アドレス以外の設定初期化

スイッチの IP アドレス以外の設定を工場出荷時の状態に戻します。

⇒ Main Menu ー System ー Restore Defaults except IP

本メニューを選択すると Restoring defaults will cause a reset. Proceed? Yes/No と聞かれます。Yes を選択すると IP アドレス以外の設定値が工場出荷時に戻ります。No を選択すると前画面に戻ります。

再起動

スイッチを再起動します。

⇒ Main Menu ー System ー Reset

本メニューを選択すると Do you want to reset the switch? Yes/No と聞かれます。Yes を選択すると再起動が実行されます。この時、設定値は保持されます。No を選択すると前画面に戻ります。

設定内容のフラッシュメモリへの保存

設定内容をスイッチのフラッシュメモリへ保存します。

⇒ Main Menu ー System ー Save Configuration

本メニューを選択すると Do you want to save configuration to NVRAM? Yes/No と聞かれます。Yes を選択すると現在の設定値をフラッシュメモリに保存します。No を選択すると前画面に戻ります。

※ 設定値の変更を行ったあとは、必ず本メニューを実行してください。実行しないと電源を切ったときに設定値が保存されません。また、各設定画面で <ctrl + w> キーを押すと本メニューと同様に設定値の保存が行えます。

Port メニュー

ポート情報表示

スイッチのポート情報を表示します。

⇒ Main Menu ー Port ー Port Information

※ 下記の画面は、BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
Port	ポート番号を表示します。
Link	リンクしているかしていないかを表示します。
Admin	ポートが有効か無効かを表示します。Disabled の場合、物理リンクが確立していてもフレーム転送をおこないません。
State	ポートの状態を表示します。
Rate/Duplex	オートネゴシエーションの有効 / 無効や無効の場合の手動による通信モード設定を行います。(デフォルト：Auto) **Auto:**　オートネゴシエーションを有効しします。 **10Half:**　10MHalf モードに設定します。 **10Full:**　10MFull モードに設定します。 **100Half:** 100Half モードに設定します。 **100Full:** 100Full モードに設定します。 ※ リンクが確立している場合は、Auto で設定されていても、実際に動作しているモードが表示されます。

パラメータ	説明
Flow Ctrl	フローコントロールの有効 / 無効を設定します。(デフォルト:Auto) **Auto:** 自動で有効 / 無効を決定します。(オートネゴシエーションが有効の場合) **Enabled:** フローコントロールを有効にします。(オートネゴシエーションが無効の場合) **Disabled:** フローコントロールを無効にします。
Comments	ポートに名前を設定します。(半角英数字 14 文字以内 / デフォルト:Port_< ポート番号 >)

※ ポートの通信速度やデュプレックスモードなどを固定で設定すると、Auto MDI-X 機能が無効となります。

ストームコントロール設定（BroadCast,MultiCast）

ブロードキャスト及びマルチキャストに対するストームコントロールの設定をおこないます。

⇒ Main Menu ー Port ー BCast & MCast Control

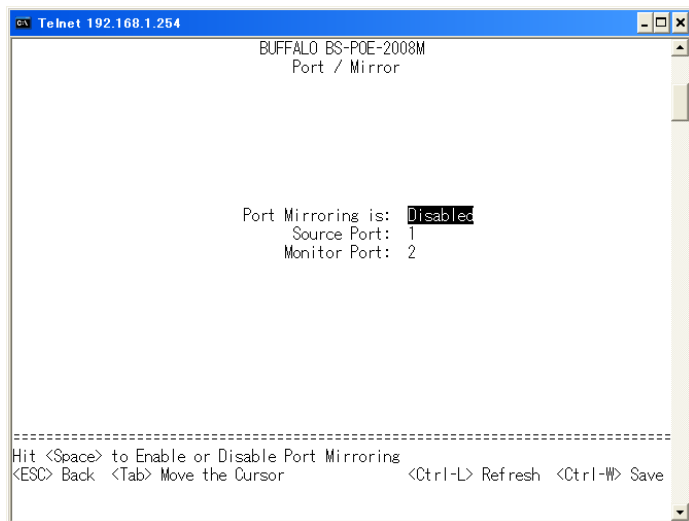
※ 下記の画面は、BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
Port	ポート番号を表示します。
Rate Limit	ブロードキャスト及びマルチキャストに対するストームコントロールのしきい値を設定します。（デフォルト：1Mbps） Disabled-> ストームコントロールを無効にします。 1Mbps-> しきい値を 1Mbps に設定します。 3Mbps-> しきい値を 3Mbps に設定します。 5Mbps-> しきい値を 5Mbps に設定します。

ポートミラーリング設定

ポートミラーリングの設定をおこないます。

⇒ Main Menu ー Port ー Mirror

※ 下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
Port Mirroring is	ポートミラーリングの有効または無効を設定します。(デフォルト:Disable(無効))
Source Port	トラフィックをモニタされるポート(ソースポート)を設定します。(デフォルト: 1)
Monitor Port	モニターするポートを設定します。(デフォルト:2)

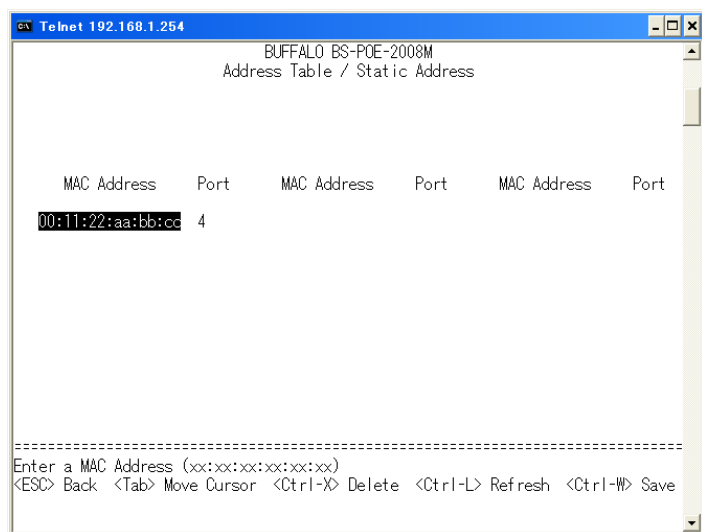
メモ　本画面で設定できるのは、Source Port/Monitored Port それぞれ 1 ポートのみです。

Address Table メニュー

静的アドレス設定

静的に登録する MAC アドレスの設定をおこないます。

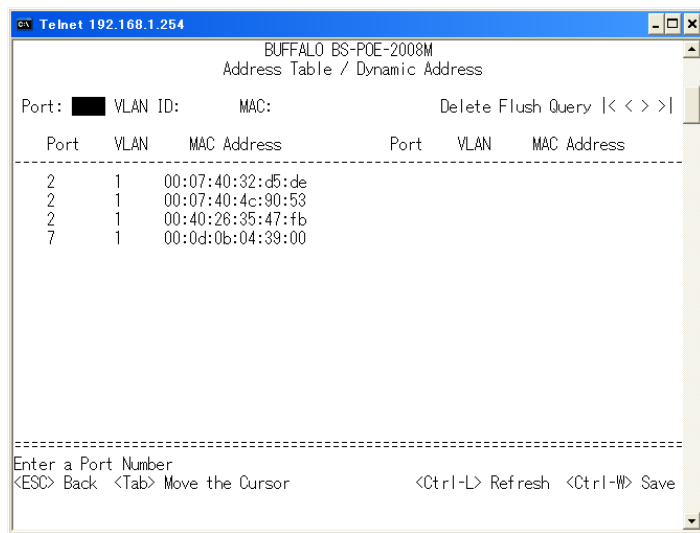
⇒ Main Menu ― Address Table ― Static Address

※ 下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
MAC Address	静的に登録する MAC アドレスを設定します｡1 バイト毎に｢:｣で区切って入力します。 ※英字は小文字で入力してください。 （入力例　00:11:22:aa:bb:cc）
Port	静的に登録するポートを設定します。

ダイナミックアドレス設定

動的に登録された MAC アドレスを表示させたり、削除したりします。

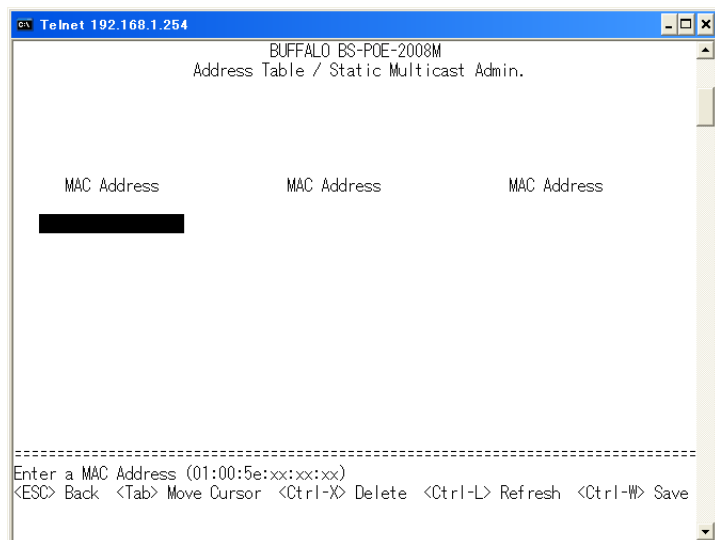
⇒ Main Menu ― Address Table ― Dynamic Address

※ 下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
Delete	Port､VLAN ID､MAC で指定されたエントリーを削除します。 (Port､VLAN ID､MAC は全て入力してください。)
Flush	エントリーを全て削除します。
Query	Port､VLAN ID､MAC で指定されたエントリーのみ表示します。
Port	ポート番号を表示します。
VLAN	VLAN 番号を表示します。
MAC Address	MAC アドレスを表示します。

スタティックマルチキャスト設定

静的に登録するマルチキャスト MAC アドレスを設定します。

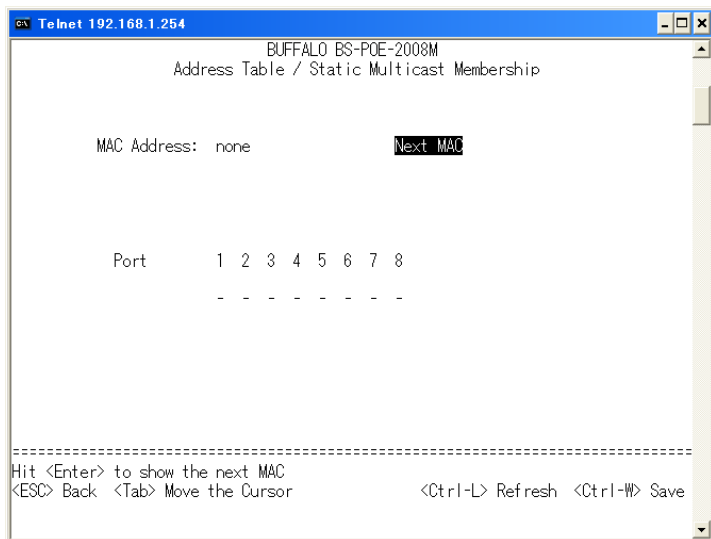
⇒ Main Menu － Address Table － Static Multicast Admin.

※ 下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
MAC Address	静的に登録するマルチキャスト MAC アドレスを入力します。1 バイト毎に｢:｣で区切って入力します。 先頭の３バイトは､01:00:5e です。（入力例　01:00:5e:aa:bb:cc）

スタティックマルチキャスト情報表示

登録されているマルチキャスト MAC アドレスを表示します。

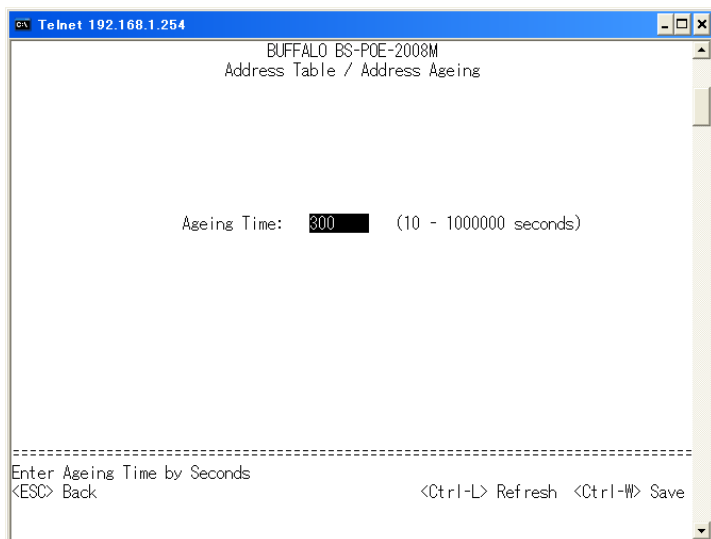
⇒ Main Menu ― Address Table ― Static Multicast Membership

※ 下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
MAC Address	登録されているマルチキャスト MAC アドレスが表示されます。
Next MAC	次のエントリーを表示します。
Port	静的 MAC アドレスのメンバーに登録するポートを設定します。メンバであるポートは× で示されます。

MAC アドレスのエージング時間設定

MAC アドレスのエージング時間を設定します。

⇒ Main Menu − Address Table − Address Ageing

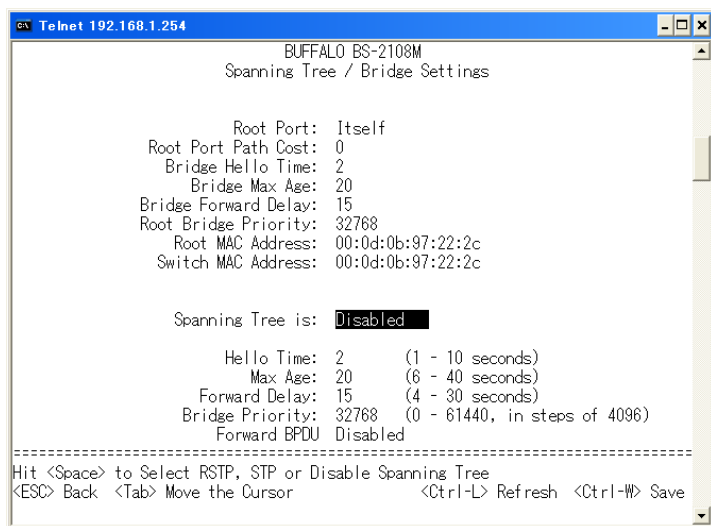
※ 下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
Ageing Time	MAC アドレスのエージング時間を秒単位で設定します。 （設定値：10 ～ 1000000/ デフォルト：300（秒））

Spanning Tree メニュー

ブリッジ設定

ブリッジ設定をおこないます。

⇒ Main Menu ― Spanning Tree ― Bridge Settings

※ 下記の画面は､BS-2108M のものです。

パラメータ	説明
Root Port	スイッチのルートポートを表示します。スイッチ自身がルートブリッジの場合､Itself と表示されます。
Root Port Path Cost	ルートブリッジまでのパスコストを表示します。
Bridge Hello Time	ルートブリッジが BPDU（Hello メッセージ）を送信する間隔（秒）を表示します。
Bridge Max Age	スイッチが BPDU（Bridge Protocol Data Unit）を受信していない状態で､再設定を試みるまでに待機する最大の時間（秒）を表示します。
Bridge Forward Delay	ブリッジが各状態を変更（listening ～ learning ～ forwarding）するまでに待機する最大の時間（秒）を表示します。
Root Bridge Priority	ルートブリッジの優先度を表示します。
Root MAC Address	ルートブリッジの MAC アドレスを表示します。

パラメータ	説明
Switch MAC Address	スイッチの MAC アドレスを表示します。
Spanning Tree is	スパニングツリーを有効または無効にします。（デフォルト：disable） **Disabled:** スパニングツリーを無効にします。 **Enable STP:** スパニングツリー（802.1d）を有効にします。 **Enable RSTP:** ラピッドスパニングツリー（802.1w）を有効にします。
Hello Time	スイッチがルートブリッジになった場合の BPDU 送信間隔を設定します。（設定値：1 - 10 秒 / デフォルト :2（秒））
Max Age:	スイッチが BPDU（Bridge Protocol Data Unit）を受信していない状態で、再設定を試みるまでに待機する最大の時間（秒）を設定します。（設定値：6 - 40 秒 / デフォルト :20（秒））
Forward Delay	ブリッジが各状態を変更（listening 〜 learning 〜 forwarding）するまでに待機する最大の時間（秒）を設定します。 （設定値：4 - 30 秒 / デフォルト :15（秒））
Bridge Priority	スイッチのブリッジ優先度を設定します。 設定できる値は、0,4096,8192,12288,16384,20480,24576,28672,32768,36864,40960,45056,49152,53248,57344,61440 です。 （デフォルト :32768）
Forward BPDU ※ BS-2108M/BS-2016M でのみ表示されます。	STP 無効時、BPDU の転送を有効（Enabled）/ 無効（Disabled）に設定します。（デフォルト :Disabled（無効））

※ スパニングツリーを使用したネットワークにスイッチを導入する場合、必ずスイッチのスパニングツリーを Enable に設定してください。スイッチのスパニングツリーが Disable に設定されている場合、BPDU を転送しないため、ネットワーク障害を引き起こす可能性があります。

ポート設定

ポート設定をおこないます。

⇒ Main Menu ー Spanning Tree ー Port Settings

※ 下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
Port	ポート番号を表示します。
Priority	ポート優先度を設定します。 設定できる値は､0,16,32,48,64,80,96,112,128,144,160,176,192,208,224,240 です。 （デフォルト :128）
Path Cost	最適パスを決定するのに用いられるポートのパスコストを設定します。（設定値 : 1 - 65535/ デフォルト :19）
FastLink	ポートをすぐに Forwarding にする機能を有効または無効にします。パソコンを接続するポートで FastLink を Enabled にするとパソコンがすぐに通信できるようになります。 （デフォルト : 全ポート Disabled）

VLAN メニュー

プライマリ VLAN 設定

プライマリ VLAN の設定をおこないます。

⇒ Main Menu ― VLAN ― Primary VLAN Admin.

※ 下記の画面は、BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
ID	VLAN 番号を設定します。 <BS-POE-2008M/BS-2016M> 入力範囲:2-511、デフォルト :VLAN1 のみ作成されています <BS-2108M> 入力範囲:2-4094、デフォルト :VLAN1 のみ作成されています
Name	VLAN につける名前を設定します。(半角英数字 12 文字まで)

※ 新規に VLAN グループを作る場合、ID に作成する VLAN 番号を入力しリターンキーを、続いて Name にその VLAN に付ける名前を入力しリターンキーを押します。

※ Name は必ず設定してください。また、スペースは使用できませんのでご注意ください。

※ VLAN ID1 は、初期設定されており削除することはできません。

プライマリ VLAN メンバー設定

プライマリ VLAN メンバーの設定をおこないます。

⇒ Main Menu ― VLAN ― Primary VLAN Membership

※ 下記の画面は、BS-POE-2008M のものです。

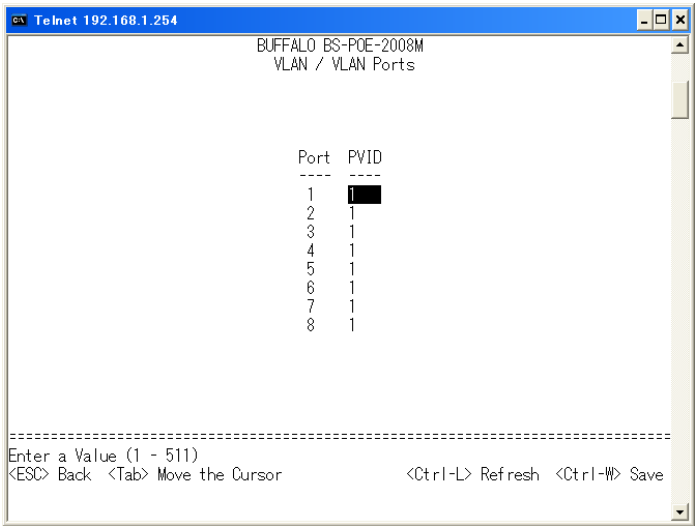
パラメータ	説明
VLAN ID	VLAN メンバの設定対象となる VLAN 番号を表示します。
Next VLAN	次の VLAN を表示します。
Prev VLAN	前の VLAN を表示します。
VLAN Name	VLAN 名を表示します。
Port	ポートを VLANID で表示される VLAN のメンバに設定します。またはメンバから削除します。（デフォルト：全ポート VLAN1 のアンタグメンバに属しています。） ー -> ポートは VLAN メンバではありません。 U -> ポートはアンタグメンバです。 T -> ポートはタグメンバです。

※ スイッチは GVRP による自動 VLAN メンバ割当には対応していません。

VLAN ポート設定

VLAN ポートの設定をおこないます。

⇒ Main Menu － VLAN － VLAN Ports

※ 下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
Port	ポート番号を表示します。
PVID	PVID（ポートベース VLANID）を設定します。アンタグフレームを受信した場合、そのフレームをここで設定された番号の VLAN と見なします。（デフォルト：全ポート 1 が設定されています。）

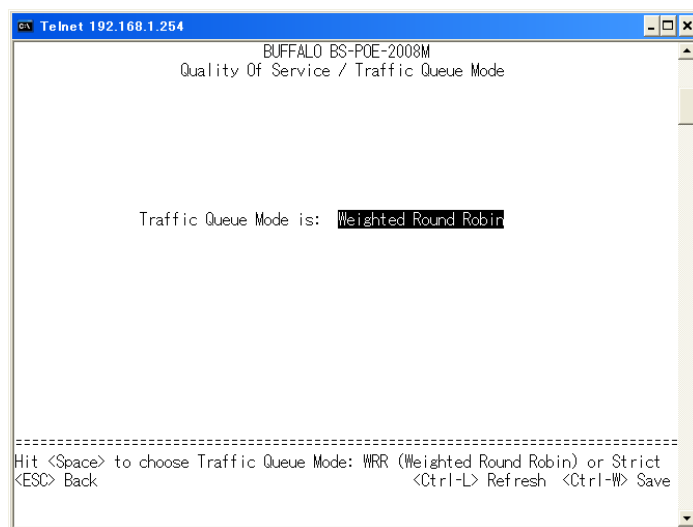
※ 各ポートはここで設定したPVIDの番号のVLANをアンタグメンバに持つように設定してください。

Quality of Service メニュー

出力キューモード設定

出力キューのモード設定をおこないます。

⇒ Main Menu ー Quality of Service ー Traffic Queue Mode

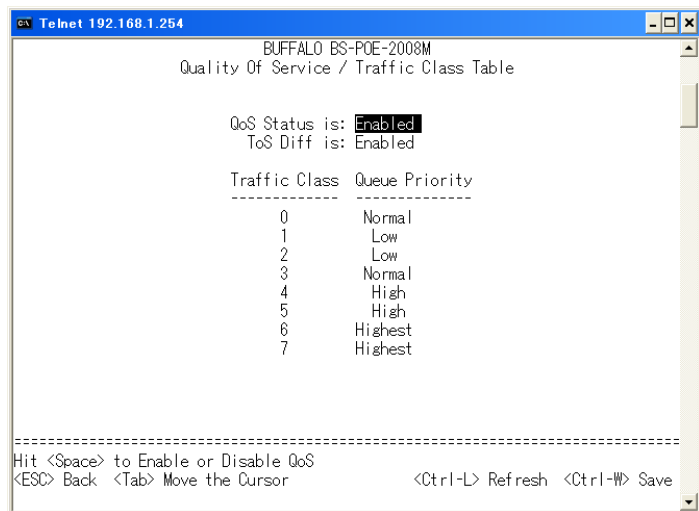
※ 下記の画面は、BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
Traffic Queue Mode is	出力キューの管理方法を設定します。(デフォルト:Weighted Round Robin) **Weighted Round Robin:** Weighted Round Robin による管理を有効にします。 **Strict:** Strict に設定します。

※ WRR の比率は、最高:高:普通:低= 8:4:2:1 です。

トラフィッククラステーブルの設定

トラフィッククラステーブルの設定をおこないます。

⇒ Main Menu ─ Quality of Service ─ Traffic Class Table

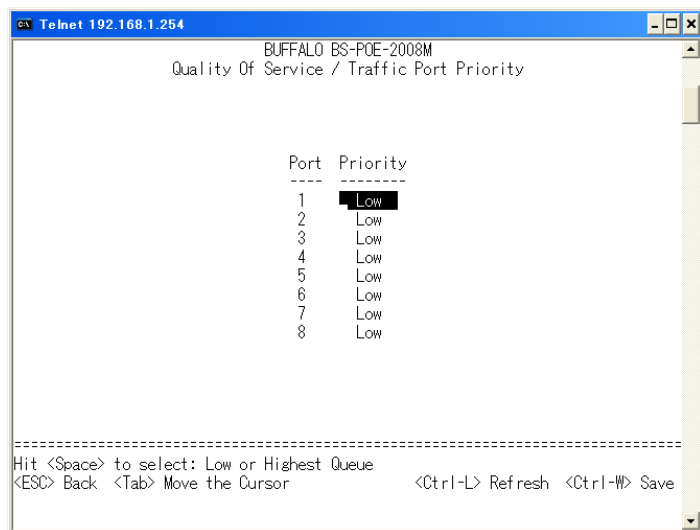
※ 下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
QoS Status is	QoS を有効又は無効にします。 **Enabled**:　QoS を有効にします。（デフォルト） **Disabled**:　QoS を無効にします。
ToS Diff	ToS/DSCP（Diffserv）ベースの優先度制御を有効又は無効にします。 **Enabled**:　優先度制御を有効にします。（デフォルト） **Disabled**:　優先度制御を無効にします。
Traffic Class	TrafficClass（0 ～ 7 の CoS 値）を表示します。

パラメータ	説明
Queue Priority	CoS に対応する優先度を設定します。 **Low:** 最低レベルの優先度です。 **Normal:** 通常の優先度です。 **High:** 高い優先度です。 **Highest:** 最大優先度です。 デフォルトは、以下のとおりです。 TrafficClass / QueuePriority 0、3 / Low（=0） 1、2 / Normal（=1） 4、5 / High（=2） 6、7 / Highest（=3）

トラフィックポートのプライオリティ設定

トラフィックポートのプライオリティ設定をおこないます。

⇒ Main Menu － Quality of Service － Traffic Port Priority

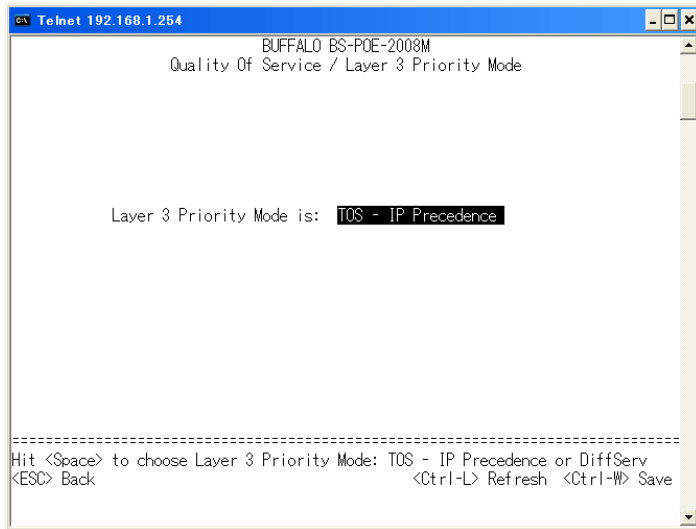
※下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
Port	ポート番号を表示します。
Priority	ポートの優先度を設定します。本項目は明示的に優先度を持たないアンタグフレームの優先度を決定します。 （デフォルト : 全ポート Low（最低レベル）の優先度が定義されています。） **Low** 最低レベルの優先度です。 **Highest** 最大優先度です。

※スイッチはアンタグフレームに対して Low､Highest の 2 種類の優先度しか設定できません。

レイヤー３のプライオリティモード設定

レイヤー３のプライオリティモード設定をおこないます。

⇒ Main Menu − Quality of Service − Layer 3 Priority Mode

※ 下記の画面は、BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
Layer 3 Priority Mode is	IP パケットに対する優先度のつけ方を指定します。（デフォルト : TOS - IP Precedence） **TOS - IP Precedence**： TOS - IP Precedence により優先度を決定します。 **DiffServ（DSCP）**： DSCP により優先度を決定します。

IP Precedence 設定

IP Precedence の設定をおこないます。

⇒ Main Menu － Quality of Service － TOS - IP Precedence

※ 下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
IP Precedence	IP Precedence の内容を表示します。
Queue Priority	各 IP Precedence に対する優先度を設定します。 **Low** ：最低レベルの優先度です。 **Normal** ：通常の優先度 **High** ：高い優先度です。 **Highest** ：最大優先度です。 デフォルトは以下の通りです。 IP Precedence / Queue Priority Routine - 000 / Low Priority - 001 / Low Immediate - 010 / Low Flash - 011 / Low Flash Override - 100 / Low CRITIC/ECP - 101 / Low Internet Control - 110 / Low Network Control - 111 / Low

DSCP の優先度表示

DSCP に対する優先度を表示します。

⇒ Main Menu － Quality of Service － DiffServ

※ 下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

Telnet 192.168.1.254

BUFFALO BS-POE-2008M
Quality Of Service / DiffServ

DSCP Value	Prty	DSCP Value	Prty	DSCP Value	Prty	DSCP Value	Prty
0	Low	16	Low	32	Normal	48	Normal
1	Low	17	Low	33	Normal	49	Normal
2	Low	18	Low	34	Normal	50	Normal
3	Low	19	Low	35	Normal	51	Normal
4	Low	20	Low	36	Normal	52	Normal
5	Low	21	Low	37	Normal	53	Normal
6	Low	22	Low	38	Normal	54	Normal
7	Low	23	Low	39	Normal	55	Normal
8	Low	24	Low	40	Normal	56	Normal
9	Low	25	Low	41	Normal	57	Normal
10	Low	26	Low	42	Normal	58	Normal
11	Low	27	Low	43	Normal	59	Normal
12	Low	28	Low	44	Normal	60	Normal
13	Low	29	Low	45	Normal	61	Normal
14	Low	30	Low	46	Normal	62	Normal
15	Low	31	Low	47	Normal	63	Normal

Hit <Space> to select: Low, Normal, High or Highest Queue Mode
<ESC> Back <Tab> Move the Cursor <Ctrl-L> Refresh <Ctrl-W> Save

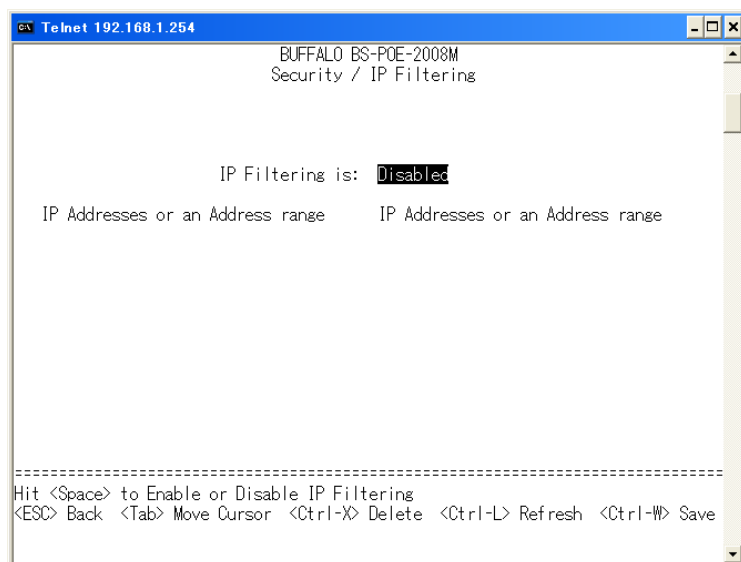
パラメータ	説明
DSCP Value	DSCP 値を表示します。
Prty	DSCP に対する優先度を表示します。 **Low:** 最低の優先度です。 **Normal:** 通常の優先度です。 **High:** 高い優先度です。 **Highest:** 最大優先度です。 デフォルトは以下の通りです。 DSCP Value 0 ～ 31 ：Low DSCP Value 32 ～ 63 ：Normal

Security メニュー

IP フィルタリング設定

IP フィルタの設定をおこないます。

⇒ Main Menu ー Security ー IP Filtering

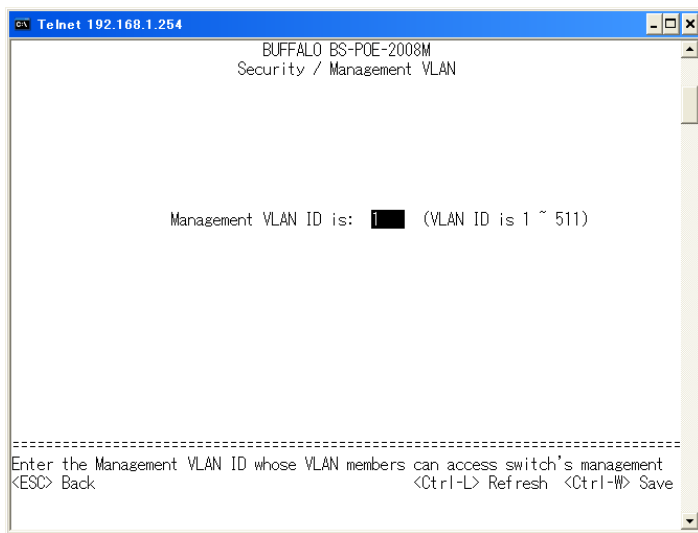
※ 下記の画面は、BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
IP Filtering is	IP Filtering 機能を有効または無効に設定します。 （デフォルト :Disabled（無効））
IP Addresses or an Address range:	フィルタの対象となる IP アドレス又は IP アドレスの範囲を設定します。本項目で設定された IP アドレスを持つパソコン以外はスイッチの設定インターフェースにアクセスできなくなります。（デフォルト : なし） 入力は単独の IP を入力するか又は IP の範囲を指定してください。範囲を指定する場合、スタート IP と終了 IP の間に - を入れます。 （例）192.168.17.229-192.168.17.244 この場合、左記範囲に含まれる IP を持つ機器からのみ管理インターフェースにアクセスできます。

VLAN の管理設定

VLAN の管理設定をおこないます。

⇒ Main Menu ー Security ー Management VLAN

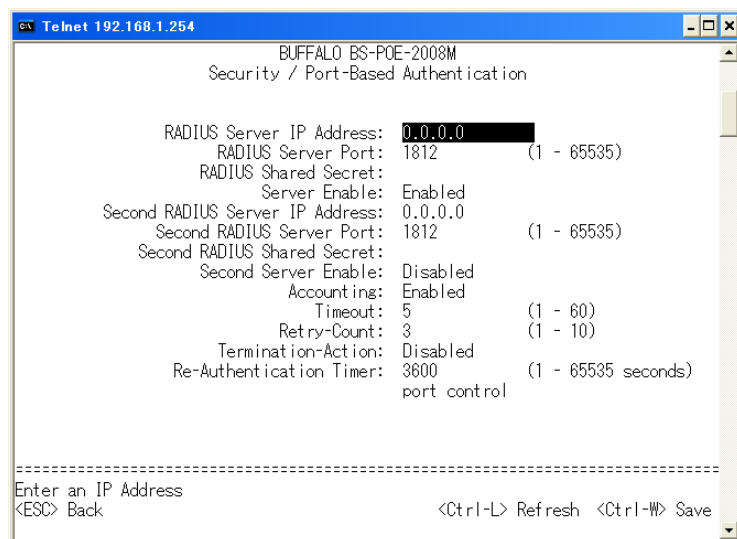
※ 下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

```
BUFFALO BS-POE-2008M
Security / Management VLAN

Management VLAN ID is: 1     (VLAN ID is 1 ~ 511)

================================================================================
Enter the Management VLAN ID whose VLAN members can access switch's management
<ESC> Back                                           <Ctrl-L> Refresh  <Ctrl-W> Save
```

パラメータ	説明
Management VLAN ID is:	マネージメント VLAN を設定します。マネージメント VLAN で指定された VLAN に属するフレームのみスイッチの管理インターフェースにアクセスすることができます。 <BS-POE-2008M/BS-2016M> 入力範囲：1 - 511､デフォルト：1 <BS-2108M> 入力範囲：1 -4094､デフォルト：1

ポート認証設定

ポートの認証設定をおこないます。

⇒ Main Menu ー Security ー Port-Based Authentication

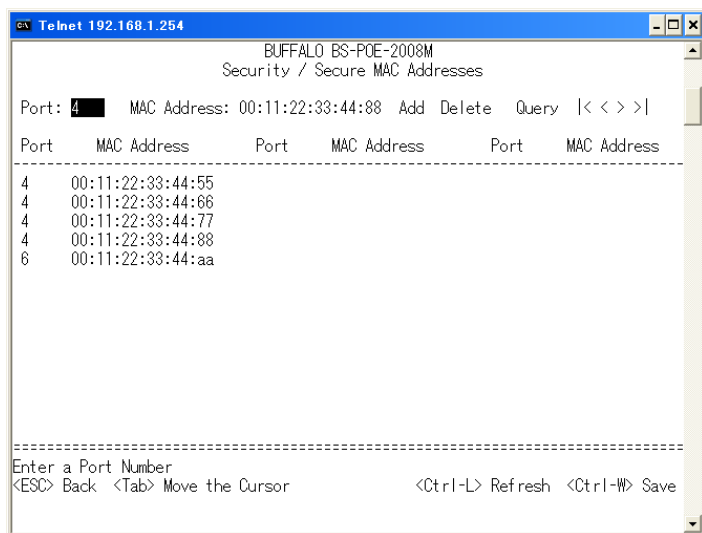
※ 下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
RADIUS Server IP Address	プライマリ認証サーバの IP アドレスを設定します。 （デフォルト：0.0.0.0）
RADIUS Server Port	プライマリ認証サーバの認証ポート番号を設定します。 （設定範囲：1-65535、デフォルト：1812）
RADIUS Shared Secret	プライマリ認証サーバの Shared Secret を設定します。 （半角英数字、”-”（ハイフン）、”_”（アンダーバー）で最大 32 文字まで）
Server Enabled	プライマリ認証サーバを有効にします。 （デフォルト：Enabled（有効））
Second RADIUS Server IP Address	セカンダリ認証サーバの IP アドレスを設定します。 （デフォルト：0.0.0.0）
Second RADIUS Server Port	セカンダリ認証サーバの認証ポート番号を設定します。 （設定範囲：1-65535、デフォルト：1812）
Second RADIUS Shared Secret	セカンダリ認証サーバの Shared Secret を設定します。 （半角英数字、”-”（ハイフン）、”_”（アンダーバー）で最大 32 文字まで）

パラメータ	説明
Second Server Enabled	セカンダリ認証サーバを有効にします。 （デフォルト:Disabled（無効））
Accounting	Accounting 機能を有効にします。 （デフォルト:Enabled（有効））
Timeout	認証サーバに対する認証要求パケットのタイムアウト時間を設定します。（設定範囲:1 ～ 60 秒、デフォルト:5（秒））
Retry-Count	認証サーバに認証要求する回数を設定します。 （設定範囲:1 ～ 10 回、デフォルト:5（秒））
Termination-Action	認証サーバからの Termination-Action 属性に従います。 （デフォルト:Disabled（無効））
Re-Authentication Timer	認証サーバに対する認証要求パケットのタイムアウト時間を設定します。（1 ～ 65535 秒） メモ 認証サーバに Session-Timer が設定されている場合、サーバ側の Session-Timeout に従い、本項目は無効となります。
port control	各ポートで dot1x 認証を使用する / 使用しないを設定します。 （デフォルト : 全ポート Disabled（無効）） Enabled:dot1x 認証を使用します。 Disabled:dot1x 認証を使用しません。

セキュア MAC アドレス

MAC アドレスフィルタリングの設定をおこないます。

⇒ Main Menu － Security － Secure MAC Addresses

※ 下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
Port	MAC アドレスフィルタを登録するポートを設定します。
MAC Address	MAC アドレスフィルタに登録する MAC アドレスを設定します。 ※英字は小文字で入力してください。 （入力例　00:11:22:aa:bb:cc）
Add	Port および MAC Address で入力した MAC アドレスとポートを MAC アドレスフィルタに登録します。 メモ　登録されたMACアドレスを送信元MACアドレスに持つフレームのみ転送し、他のフレームは破棄されます。
Delete	Port および MAC Address で指定された MAC アドレスフィルタテーブルを削除します。MAC アドレスとポートが設定済みの MAC アドレスフィルタと一致していなければいけません。

パラメータ	説明
Query	Port または MAC Address で指定された MAC アドレスフィルタをソートして表示します。Port のみ、MAC Address のみ、Port と MAC Address の組合せで使用できます。 （例 :Port に 7 を入力し、Query を押すと Port7 に登録されたエントリーのみ表示されます。）

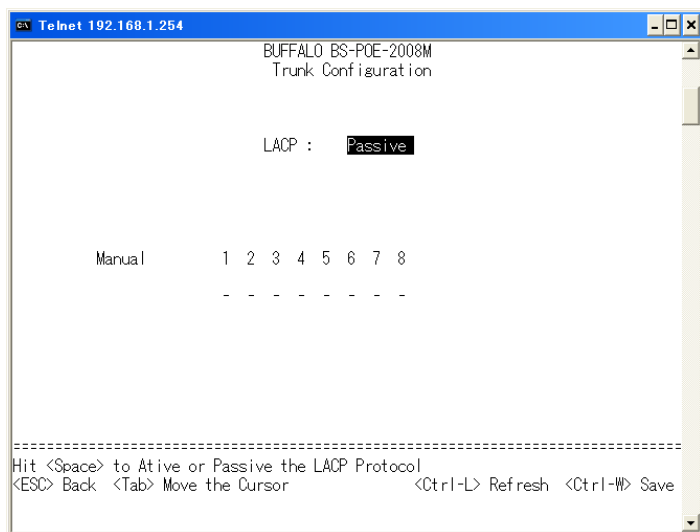
※ 各ポート最大 16 個の MAC アドレスを登録できます。

Trunk メニュー

トランク設定

トランク設定をおこないます。

⇒ Main Menu ─ Trunk

※ 下記の画面は、BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
LACP	LACP のモードを選択します。 **LACP Passive:**　自分から LACP を送信せず、受信のみとなります。（デフォルト） **LACP Active:**　自分から LACP を送信します。 ※ LACP を使用する場合、トランクを形成する 2 台のスイッチのうちどちらかが LACP Active でなければいけません。
Manual	ポートを手動でトランクのメンバに設定します。またはメンバから削除します。トランクグループは 4 グループ作成でき、それぞれ 1-4 の番号で区別されます。トランクのメンバに設定するポートにトランクの番号（1-4）を設定してください。同じ番号を持つポートは同じトランクメンバになります。（デフォルト：トランクは設定されていません。） －　：トランクは設定されていません。 1 ～ 4: トランクグループを示す番号です。

※ 手動でトランクグループを設定した場合、LACP は無効になります。

※ BS-2016M は､ポート 1 ～ 8 のみトランクをサポートします。

※ トランクメンバから削除する場合はスペースを押し､- を表示させてください。

※ スイッチでは送信元 MAC アドレス及び送信先 MAC アドレスを元に負荷分散を行います。

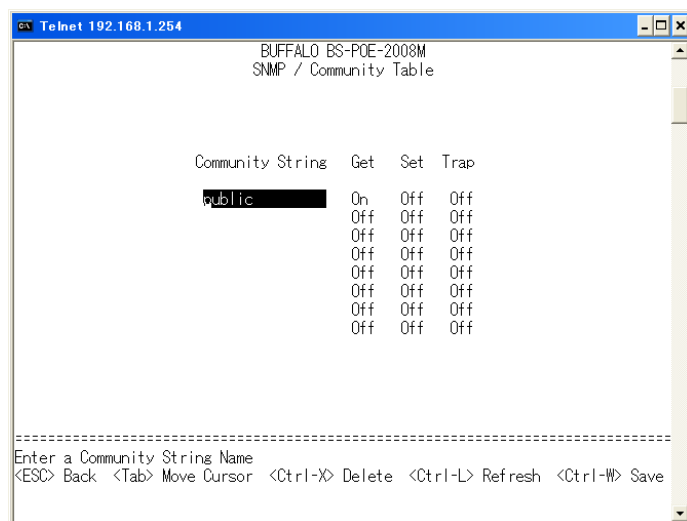
※ トランクグループのメンバーに設定するポートは Full-Duplex モードで動作させてください。

SNMP メニュー

コミュニティテーブル設定

コミュニティテーブルの設定をおこないます。

⇒ Main Menu － SNMP － Community Table

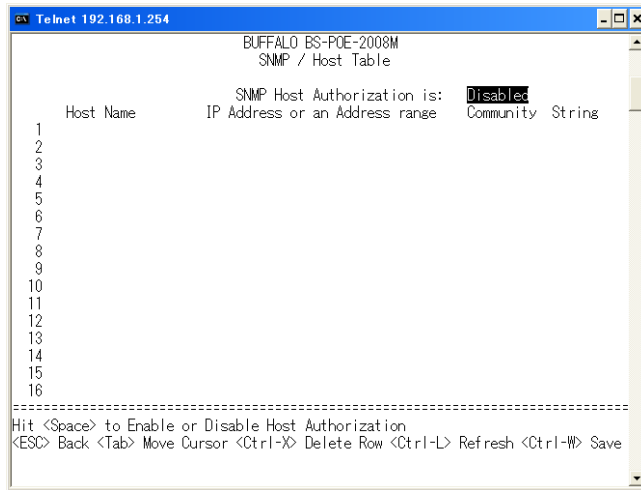
※ 下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
Community String	コミュニティ名を設定します。（半角英数字、”-”（ハイフン）、”_”（アンダーバー）で 31 文字まで / デフォルト :public が設定済みで Get のみ有効です。）
Get	MIB データの読み込みを許可します。
Set	MIB データの書込みを許可します。（ただし書込み可能な MIB に限ります。）
Trap	SNMP トラップに使用します。

※ デフォルトのコミュニティ名はセキュリティ維持のため､変更されることを推奨します。

ホストテーブル設定

ホストテーブルの設定をおこないます。

⇒ Main Menu ― SNMP ― Host Table

※ 下記の画面は、BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
SNMP Host Authorization is	SNMP ホストの認証を有効または無効にします。（デフォルト :Disabled（無効））
Host Name	ホスト名を設定します。（半角英数字、"-"（ハイフン）、"_"（アンダーバー）で 32 文字まで / デフォルト : なし）
IP Address or an Address range	SNMP アクセスを許可するホストの IP または IP の範囲を設定します。（デフォルト : なし）
Community String	スペースキーを押してコミュニティ名を選択します。本項目を設定する前に事前に Community Table メニューにてコミュニティ名を設定しておく必要があります。（デフォルト : なし）

※ SNMP トラップを使用する場合、トラップを送信するホストをホストテーブルに登録し、コミュニティのTrap属性を有効にします。なお、一度トラップを有効にしたホストをホストテーブルに登録すると、Host Authorization is を無効にしてもトラップを送信します。トラップ送信を中止したい場合、トラップホストをホストテーブルから削除する必要があります。

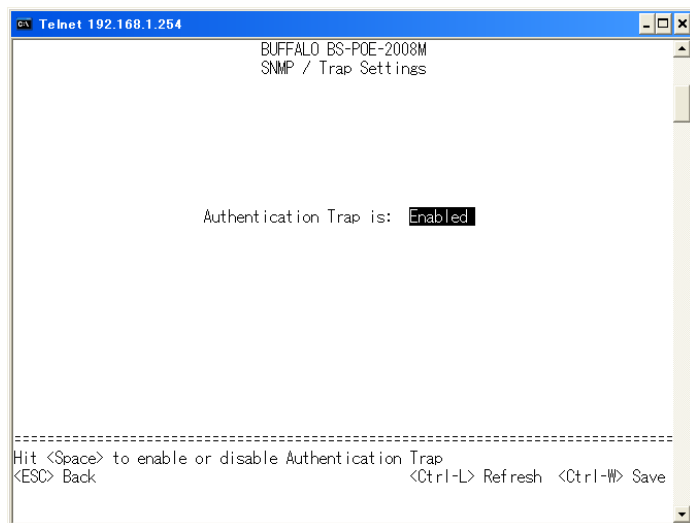
※ サポートするトラップは次の通りです。

0 coldStart
1 warmStart
2 linkDown
3 linkUp
4 authenticationFailure（有効 / 無効の切り替えができます。）

認証トラップ設定

認証トラップ設定をおこないます。

⇒ Main Menu － SNMP － Trap Settings

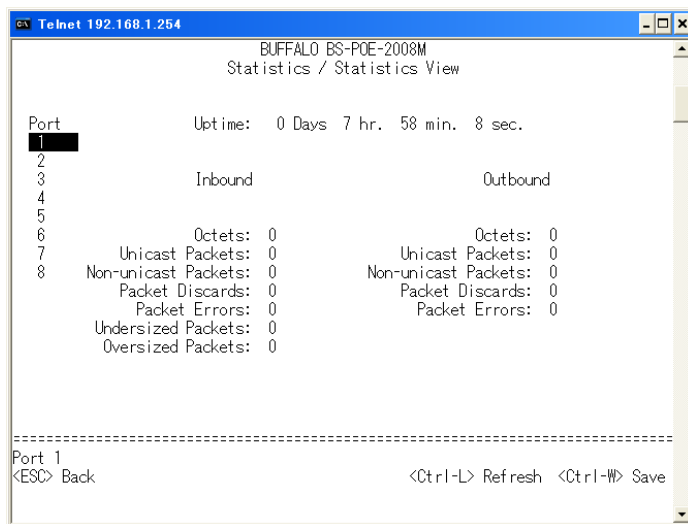
※下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
Authentication Trap is	認証トラップを有効または無効に設定します。 （デフォルト：Enabled（有効）） **Enabled:** ホストテーブルの有効無効に関わらず､コミュニティー名の一致しない SNMP 要求を受信した時､又はホスト認証が有効の状態で無効なホストから要求を受けた場合に Authentication Failure トラップを発行します。 **Disabled:** コミュニティー名の一致しない SNMP 要求を受信しても Authentication Failure ラップを発行しません。

Statistics メニュー

統計情報表示

統計情報を表示します。

⇒ Main Menu ー Statistics ー Statistics View

※ 下記の画面は､BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
Port	ポート番号を表示し､選択されたポートの統計情報を表示します｡表示される情報は次の通りです。 Inbound: Octets, Unicast Packets, Non-unicast Packets, Packet Discards, Packet Errors, Undersized Packets, Oversized Packets Outbound: Octets, Unicast Packets, Non-unicast Packets, Packet Discards, Packet Errors

※ パケット数のカウンタの上限値は 4294967295 です。上限を超えると、カウンタは 0 に戻ります。

統計情報のクリア

統計情報をクリアします。

⇒ Main Menu ー Statistics ー Reset Statistics

本メニューを選択すると Do you want to reset the counters? Yes/No と聞かれます。Yes を選択すると統計情報をクリアします。No を選択すると前画面に戻ります。

PoE Management メニュー

※ このメニューは、BS-POE-2008M のみのメニューです。

PoE 管理設定

PoE に関する設定をおこないます。

⇒ Main Menu − PoE Management

※ 下記の画面は、BS-POE-2008M のものです。

パラメータ	説明
System Available Power(mw)	PoE で使用する最大の電力を表示します。
PoE Power Used(mw):	現在 PoE で使用されているトータルの電力を表示します。(mw)
Remaining Power(mw)	PoE で給電できる残りの電力を表示します。(mW)
Set Margin	PD に供給する電力のマージンを設定します。ここで設定した値の電力は、既存の PD デバイスの電力変動のために予約され、新しい PD の接続には使用されません。 例えば 20W を選択した場合、全体の消費電力が 40W(=60W-20W)に達するまでは、新しい PD の接続を受け付けますが、40W を超えると新しい PD を受け付けません。 選択できるマージン値は、10W、15W、20W です。 (デフォルト:10W)

パラメータ	説明
Port	ポート番号を表示します。
On/Off	PoE 給電の有効または無効を設定します。Off に設定すると、イーサネットポートとしては使用できますが、電力供給は行いません。（デフォルト :On）
Status	各ポートの PoE の給電状態を表示します。 **Powerd**: ポートは給電中です。 **Not Powerd**: 非給電状態です。 **AC Disconnected**: AC ディスコネクションにより給電を停止しています。
Class	PD のクラスを表示します。
Power Priority	ポートの PoE における優先度を設定します。全体の消費電力がスイッチの供給可能な最大電力を超えた場合、優先度が低い PD から給電を停止します。
Power(mw)	各ポートで消費されている消費電力を表示します。（mw）
Current(mA)	各ポートで消費されている電流を表示します。（mA）

Command Line メニュー

CLI モード切り替え

CLI モードに切り替えます。

⇒ Main Menu － Command Line

Exit メニュー

ログアウト

ログアウトします。

⇒ Main Menu － Exit

3 コマンドラインインタフェース

コマンドラインインタフェースの操作

ここでは、コマンドラインインタフェース（CLI）の使い方を説明します。スイッチは、コマンドラインインタフェースから CLI コマンドのキーワードやパラメータを入力して設定できます。

コマンドラインインタフェースへのアクセス

スイッチは、コンソール接続またはネットワーク接続（TELNET）でつないだ設定用のコンピュータを使って、 コンソールプロンプト上から CLI コマンドのキーワードやパラメータを入力して設定できます。

コマンドラインインタフェースの操作

コンソールプロンプトを表示させる手順は次のとおりです。

1 スイッチにログインします。
Login に「admin」を入力し、<Enter> を押します（Password はデフォルトでは設定されていません）。
「Main Menu」が表示されます。

メモ ログイン手順に関しては、「第 1 章 初期設定」(P.7) を参照してください。

2 「l」を押して、「Command Line」を選択します。
コンソールプロンプトが表示されます。

```
BS000D0B08C000#
```

メモ Telnet を使用して、同時に最大 4 つのセッションを持つことができます。

CLI コマンドの入力

ここでは CLI コマンドの入力のしかたについて説明します。

キーワードと引数

CLI コマンドとは一連のキーワードと引数からなります。
キーワードはコマンドを確定し、引数は設定パラメータを指定します。
例えば、" show interfaces Ethernet 5" というコマンドでは、" show interfaces Ethernet " はキーワードで、"5" はポートを指定する引数です。

コマンドは次のように入力することができます。
簡単なコマンドを 1 つ入力する場合には、コマンドキーワードを入力します。
複数のコマンドを入力する場合には、各コマンドを必要とする順序で入力します。

例えば、ヘルプを表示させるためには、次のように入力します。

```
BS000D0B08C000# help
Help may be requested at any point in a command by entering
a question mark '?'.  If nothing matches, the help list will
be empty and you must backup until entering a '?' shows the
available options.
Two styles of help are provided:
1. Full help is available when you are ready to enter a
   command argument (e.g. 'show ?') and describes each possible
   argument.
2. Partial help is provided when an abbreviated argument is
entered
   and you want to know what arguments match the input
   (e.g. 'show pr?'.)

BS000D0B08C000#
```

パラメータを必要とするコマンドを入力する場合には、コマンドキーワードのあとに必要なパラメータを入力します。

例えば、管理者用のパスワードに ”abc” を設定する場合には、次のように入力します。

```
BS000D0B08C000(config)# system password abc
BS000D0B08C000(config)#
```

コマンドの省略

コマンドラインインタフェースでは、あるコマンドを確定するために最低限必要な文字数からコマンドのキーワードを認識します。
例えば、"configure" というコマンドを "config" と入力するだけで使うことができます。

コマンドの補完

コマンドラインインタフェースでは、あるコマンドの入力を途中でやめて <Tab> を押すと、コマンドが確定できる場合には、コマンド全体を補完入力します。
例えば "interfaces" では、int と入力して <Tab> を押すと、"interfaces" の部分までのコマンドが補完されます。

コマンドに関するヘルプ

help コマンドを入力すると、ヘルプシステムの簡単な説明を表示させることができます。
また、"?" マークを入力すると、入力可能なキーワードやパラメータの説明を一覧表示させることができます。

```
BS000D0B08C000# show ?
Commands:
  bcast-mcast-rate  Show Broadcast & Multicast rate limit for each
port
  cos               Show Traffic Class Mapping settings
  diffserve         Show diffserve settings
  dot1x             Show 802.1x settings
  interfaces        Interface status and configuration
  ip                IP information
  layer3-mode       Layer 3 priority Mode
  log               Show System Log
  mac-address-table MAC forwarding table
  management-vlan   Management VLAN ID
  mirror            Show mirroring settings
  poe               Show Power over Ethernet settings
  queue-mode        Queue Scheduling Mode
  running-config    Current operating configuration
  snmp              snmp
  spanning-tree     Spanning tree topology
  system            Show system settings
  tos               Show TOS settings
  trunking          Show Trunking information
  vlan              Show Vlan information

BS000D0B08C000# show
```

コマンドの取り消し

多くの設定コマンドは、キーワードに接頭辞の "no" をつけて入力することによってコマンドの実行を取り消したり、設定をデフォルト値に戻すことができます。

例)
mirror コマンドでポートミラーリングを有効にした状態で、「no mirror」と入力するとミラーリングを無効にできます。

コマンドモードについて

コマンドセットは Exec クラスと Configuration クラスに分けられます。
Exec クラスのコマンドは、一般的にシステム状態の表示、統計カウンタのクリアを行います。
Configuration クラスのコマンドは、インタフェースのパラメータの変更、特定のスイッチ機能の切り替えを行います。
これらのクラスはさらに異なるモードに分けられます。選択したモードによって利用できるコマンドが異なります。
プロンプトで "?" マークを入力すると、いつでも現在のモードで利用できるコマンドのリストを表示させることができます。

```
BS000D0B08C000(config)# ?
Commands:
  cos                  Set Traffic Class Mapping
  diffserve            Set DiffServe settings
  dot1x                Set 802.1x settings
  exit                 Exit from configure mode
  interface            Select an interface to configure
  lacp                 Link Aggregation Control Protocol
  layer3-mode          Set Layer 3 Priority mode
  mac-address-table    Configure the MAC address table
  management-vlan      Configure the Management VLAN ID
  no                   Negate a command or set its defaults
  poe                  Set PoE settings
  queue-mode           Set Queue Scheduling Mode
  snmp-server          Modify SNMP parameters
  spanning-tree        Spanning Tree Subsystem
  system               System Settings
  tos                  Set TOS settings
  vlan                 Configure VLAN parameters

BS000D0B08C000(config)#
```

Exec コマンド

新たなコンソールセッションを開始しCLIモードにログインすると、スイッチはPrivilegedl Exec コマンドモード（特権モード）にログインします。

Configuration コマンド

Configuration コマンドは、スイッチの設定を変更するために利用される特権モードのコマンドです。
特権モード（Privileged Exec モード）から移動するには config コマンドを使います。
プロンプトが " Not Defined(config)# " に変わり、すべての Global Configuration コマンドへのアクセス権が得られます。特権モードに戻るには exit コマンドを使います。

Configuration コマンドは、次の 2 つのモードに分けられます。
Global Configuration：このモードのコマンドはシステムレベルの設定を変更します。
system や poe などのようなコマンドがあります。
Interface Configuration：このモードのコマンドはポートの設定を変更します。
speed や duplex などのコマンドがあります。

これらのコマンドは実行中の設定を変更するだけで、再起動すると設定を失います。
実行中の設定をフラッシュメモリに保存するためには、system save コマンドを使います。

一般的なコマンド

help

このコマンドは Privileged EXEC モードに存在し、CLI ヘルプシステムの使用に関する簡単なメッセージを表示できます。

【コマンドの構文】

help

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# help
Help may be requested at any point in a command by entering
a question mark '?'.  If nothing matches, the help list will
be empty and you must backup until entering a '?' shows the
available options.
Two styles of help are provided:
1. Full help is available when you are ready to enter a
   command argument (e.g. 'show ?') and describes each possible
   argument.
2. Partial help is provided when an abbreviated argument is
entered
   and you want to know what arguments match the input
   (e.g. 'show pr?'.)

BS000D0B08C000#
```

configure

「Global Configuration (config)」コマンドモードに入ります。

【コマンドの構文】

configure

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# configure
Configuring from terminal....
BS000D0B08C000(config)#
```

Interface ethernet

指定した LAN ポートの「Interface Configuration (config-if)」コマンドモードに入ることができます。

【コマンドの構文】

interface ethernet <port>

【パラメータ】

<port>　　LAN ポート番号を指定します。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# interface Ethernet 1
BS000D0B08C000(config-if)#
```

exit

現在操作しているモードを終了して直前のモードに戻ることができます。
PrivilegedEXEC モードで実行した場合は、ログイン画面に戻ります。

【コマンドの構文】

exit

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

All command mode

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# exit
BS000D0B08C000(config)#
```

ping

ping コマンドを発行し情報を表示できます。

【コマンドの構文】

ping <ip>

【パラメータ】

<ip>　IP アドレスを指定します。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# ping 192.168.1.48
Received 64 bytes from (192.168.1.48) time=49 ms

BS000D0B08C000#
```

show running-config

現在動作している設定内容を表示できます。

【コマンドの構文】

show running-config

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Priviledged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show running-config
snmp-server name BS000D0B08C000
snmp-server location Not Defined
snmp-server contact Not Defined
!
snmp-server community public ro
no snmp-server host-authorization
!

＜＜＜＜＜　途中省略　＞＞＞＞＞

system web
system telnet
system password
system username admin
system password 578A784390128FA4C42400C1334547732F27D1C30936280FBEC
system config-tftp ip 0.0.0.0
system config-tftp path/file
no system ip-filter

BS000D0B08C000#
```

system firmware-tftp download

ファームウェアをダウンロードできます。

【コマンドの構文】

system firmware-tftp download <ip> <filename>

【パラメータ】

<ip>	TFTP サーバの IP アドレスを指定します。ファームウェアのバージョンアップには別途 TFTP サーバが必要です。
<filename>	ファームウェアファイルの名前を指定します。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Priviledged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system firmware-tftp download 192.168.1.24
RDUx_bl.4356
```

※ファームウェアのダウンロード中は絶対に電源を落とさないでください。
※ダウンロードが成功すると、スイッチは自動的に再起動します。

system config-tftp load / system config-tftp save

設定を保存 / 復元できます。load は保存された設定を TFTP サーバからダウンロードします。save は設定を TFTP サーバに保存します。

【コマンドの構文】

system config-tftp load <ip> <filename>
system config-tftp save <ip> <filename>

【パラメータ】

<ip>	TFTP サーバの IP アドレスを指定します。本コマンドを実行するには別途 TFTP サーバが必要です。
<filename>	設定ファイルの名前を指定します。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Priviledged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system config-tftp save 192.168.1.24 clitest.cfg
BS000D0B08C000(config)#
```

※設定の保存 / 復元には別途 TFTP サーバが必要です。

※設定を復元する際は、スイッチを初期化してから復元してください。初期化せずに復元した場合、正しく復元できないことがあります。

SNMP コマンド

※ SNNP コマンドを使うには、別途 SNMP モニタリングソフトが必要です。

snmp-server name

システム名を設定できます。

【コマンドの構文】

snmp-server name <string>
no snmp-server name

【パラメータ】

<string>	スイッチの名前を、半角英数字、"-"(ハイフン)、"_"(アンダーバー)で 63 文字以内(スペースは不可)で設定します。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# snmp-server name buffalo
buffalo(config)#
```

snmp-server location

システムのロケーションを設定できます。

【コマンドの構文】

snmp-server location <string>
no snmp-server location

【パラメータ】

<string>	スイッチが設置されている場所を、半角英数字、"-"(ハイフン)、"_"(アンダーバー)で 63 文字以内(スペースは不可)で指定します。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# snmp-server location buffalo
BS000D0B08C000(config)#
```

snmp-server contact

システムのコンタクト情報を設定できます。

【コマンドの構文】

snmp-server contact <string>
no snmp-server contact

【パラメータ】

<string>　スイッチの管理者名を、半角英数字、"-"(ハイフン)、"_"(アンダーバー)で 63 文字以内(スペース不可)で指定します。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# snmp-server contact buffalo_admin
BS000D0B08C000(config)#
```

snmp-server community

コミュニティ名を設定できます。

【コマンドの構文】

snmp-server community <community> <privilege>
no snmp-server community <community> <privilege>

【パラメータ】

<community>	コミュニティ名を半角英数字、"-"（ハイフン）、"_"（アンダーバー）の 31 文字以内で指定します。（スペースは不可）
<privilege>	アクセスモードを指定します。 RO読取り専用 RW読取り / 書込み WO書込み専用 trap trap ホストに対するコミュニティ名を有効にします。

※何も指定せずにリターンキーを押した場合、読み取り、書込み、trap いずれも OFF になります。

※ no を使用したコマンドの場合、"trap" のみ指定可能です。この場合、指定されたコミュニティ名の trap を OFF にします。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# snmp-server community buffalo1 rw
BS000D0B08C000(config)#
```

※ デフォルトで読み書き可能なコミュニティ名「public」が設定されています。セキュリティ強化のためこのコミュニティ名は削除または変更されることをお勧めします。

※ コミュニティ名のエントリは最大 8 個まで設定できます。

※ no を付けたコマンドを入力し、既存のコミュニティ名を指定するとそのコミュニティ名を削除することができます。

※大文字小文字の区別があります。

snmp-server host

SNMP ホストのコミュニティ名及び IP アドレスを設定します。

【コマンドの構文】

snmp-server host <string1> <ip> <string2>
no snmp-server host <string1>

【パラメータ】

<string1>	SNMP ホストの名前を設定します。
<ip>	SNMP ホストの IP アドレス又は IP アドレス範囲を設定します。範囲指定を行う場合、最初の IP と終わりの IP を - で区切って入力します。 （例）192.168.1.10-192.168.1.20
<string2>	コミュニティ名を半角英数字、”-”（ハイフン）、”_”（アンダーバー）の 31 文字以内で指定します。

【デフォルト設定】

read-only のコミュニティ public が設定されています。
デフォルトのコミュニティ名は変更されることをお勧めします。

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# snmp-server host buffalo 172.16.5.198 private
BS000D0B08C000(config)#
```

snmp-server host-authorization

SNMP ホストの認証を有効または無効にします。

【コマンドの構文】

snmp-server host-authorization
no snmp-server host-authorization

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# snmp-server host-authorization
BS000D0B08C000(config)#
```

snmp-server trap

指定された SNMP トラップの通知を有効または無効にできます。

【コマンドの構文】

snmp-server trap
no snmp-server trap

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# snmp-server trap
BS000D0B08C000(config)#
```

show snmp

SNMP コミュニティや認証の情報を表示できます。

【コマンドの構文】

show snmp

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show snmp

Host Authorization: Enabled
Authentication Trap: Enabled

Community-String Community-Access
---------------- ----------------
public get
buffalo1 get-set

BS000D0B08C000#
```

システム管理コマンド

show system

システムの詳細情報を表示できます。

【コマンドの構文】

show system

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show system

System Uptime: 0 Days  0 hr.  41 min.  49 sec.
System Description: BS-POE-2008M
System name: BS000D0B08C000
System contact: buffalo_admin
System location: buffalo
MAC Address: 00:0d:0b:08:c0:00

IP Assignment Mode: Manual
IP Address: 192.168.1.254
Network Mask: 255.255.255.0
Gateway Address: 0.0.0.0

Web Access is: Enabled
Telnet Access is: Enabled
Password is: Enabled

User Authentication Mode is Local
RADIUS Server IP Address: 0.0.0.0
Shared Secret is:
SNTP Server IP Address: 0.0.0.0

Hardware Version: Not Defined
Boot Code Version: 1.0 (4350)
Firmware Version: 1.0.2 (5214)

TFTP Server IP Address: 0.0.0.0
TFTP Path/Filename:

IP Filtering is: Disabled

BS000D0B08C000#
```

system web

WEB 設定画面へのアクセスを有効または無効にできます。

【コマンドの構文】

system web
no system web

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

有効

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system web
BS000D0B08C000(config)#
```

system telnet

Telnet 設定画面へのアクセスを有効または無効にできます。

【コマンドの構文】

system telnet
no system telnet

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

有効

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system telnet
BS000D0B08C000(config)#
```

system save

設定内容を NVRAM に保存します。

【コマンドの構文】

system save

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system save
Configuration saved to NVRAM.
BS000D0B08C000(config)#
```

system reset

スイッチを再起動します。

【コマンドの構文】

system reset

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system reset
System Resetting.....
```

system restore-all

スイッチの設定値を工場出荷時状態に戻します。

【コマンドの構文】

system restore-all

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system restore-all
Configuration Saved. System Resetting.....
```

system restore-except-ip

スイッチの設定値の IP アドレス以外を工場出荷時状態に戻します。

【コマンドの構文】

system restore-except-ip

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system restore-except-ip
Configuration Saved. System Resetting.....
```

system ip

システムの IP アドレスを設定します。

【コマンドの構文】

ip address <ip>

【パラメータ】

<ip> IP アドレスを指定します。

【デフォルト設定】

デフォルト値は、それぞれ 192.168.1.254 です

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system ip 192.168.11.62
```

system mask

システムの IP アドレスを設定します。

【コマンドの構文】

system mask <mask>

【パラメータ】

<mask> サブネットマスクを指定します。

【デフォルト設定】

255.255.255.0

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system mask 255.255.255.0
BS000D0B08C000(config)#
```

system gateway

システムの IP アドレスを設定します。

【コマンドの構文】

system mask <gateway>

【パラメータ】

<gateway> サブネットマスクを指定します。

【デフォルト設定】

0.0.0.0

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system gateway 192.168.1.1
BS000D0B08C000(config)#
```

system ip-mode

IP アドレスの取得方法を指定します。

【コマンドの構文】

system ip-mode <method>

【パラメータ】

<method>　IP アドレスの取得方法を指定します。

manual	手動で IP アドレスを指定します。system ip で設定した IP が有効になります。
bootp	BOOTP サーバより IP アドレスを取得します。
dhcp	DHCP サーバより IP アドレスを取得します。

【デフォルト設定】

manual

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system ip-mode manual
BS000D0B08C000(config)#
```

※ show ip コマンドで現在の設定値を確認できます。

show ip

IP 設定情報を表示できます。

【コマンドの構文】

show ip
show ip interface

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show ip

IP Assignment Mode: Manual
IP address: 192.168.1.254
Subnet mask: 255.255.255.0
Default gateway: 0.0.0.0

BS000D0B08C000#
```

system username

システムにログインするためのユーザー名を指定できます。

【コマンドの構文】

system username <string>

【パラメータ】

<string>	ユーザー名を半角英数字、"-"(ハイフン)、"_"(アンダーバー)20 文字以内で指定します。

【デフォルト設定】

admin

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system username buffalo
BS000D0B08C000(config)#
```

※変更後はセーブしてください。

system password

システムにログインするためのパスワードを指定できます。

【コマンドの構文】

system password <string>
no system password

【パラメータ】

<string>	パスワードを半角英数字、"-"（ハイフン）、"_"（アンダーバー）の 20 文字以内で指定します。

【デフォルト設定】

デフォルトでは設定されていません

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system password buffalo
BS000D0B08C000(config)#
```

※ 変更後はセーブしてください。
※ パスワードを忘れてしまいますと、弊社修理センターにて修理（有償）していただくことになりますので、ご注意ください。

management-vlan

マネージメント VLAN を設定します。設定された VLAN からのみスイッチの管理 I/F にアクセスできます。

【コマンドの構文】

management-vlan <vlanID>

【パラメータ】

<vlanID>	VLAN 番号を指定します。	
	<BS-POE-2008M/BS-2016M>	設定範囲：1-511
	<BS-2108M>	設定範囲：1-4094

【デフォルト設定】

デフォルトのマネージメント VLAN は 1 です

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# management-vlan 1
BS000D0B08C000(config)#
```

system ip-filter

IP フィルタを有効又は無効にします。IP フィルタは指定された IP からのみスイッチの管理 I/F にアクセスを許可する機能です。

【コマンドの構文】

system ip-filter address
no system ip-filter address

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

デフォルトでは設定されていません

【コマンドモード】

Global configuration

system ip-filter address

IP フィルタを設定します。ここで指定された IP からのみスイッチの管理 I/F にアクセスできます。

【コマンドの構文】

system ip-filter address <address>
no system ip-filter address <address>

【パラメータ】

< address >	IP アドレス又は IP アドレス範囲を指定します。範囲を指定する場合、x.x.x.x-y.y.y.y のようにアドレスの間を - で区切ってください。

【デフォルト設定】

デフォルトでは設定されていません

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system ip-filter address 192.168.1.210-
192.168.1.255
BS000D0B08C000(config)#
```

show management-vlan

マネージメント VLAN の設定内容を表示します。

【コマンドの構文】

show management-vlan

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show management-vlan

Management VLAN ID is 1

BS000D0B08C000#
```

インタフェースコマンド

※ポートの指定は「Interface ethernet」(P72) で指定してください。

description

ポート名を設定できます。

【コマンドの構文】

description <string>
no description

【パラメータ】

<string>　　ポート名を設定します。半角英数字、"-"(ハイフン)、"_"(アンダーバー)の 32 文字以内(スペース不可)。

【デフォルト設定】

Port_<LAN ポート番号 >

【コマンドモード】

Interface configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# description buffalo
BS000D0B08C000(config-if)#
```

shutdown

指定のポートを有効または無効に設定します。

【コマンドの構文】

shutdown
no shutdown

【パラメータ】

<port>　　LAN ポート番号を指定します。

【デフォルト設定】

有効

【コマンドモード】

Interface configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# shutdown
BS000D0B08C000(config-if)#
```

negotiation auto

オートネゴシエーションを有効または無効にします。
※ オートネゴシエーションを無効にすると、Auto MDI-X 機能も無効となります。

【コマンドの構文】

negotiation auto
no negotiation

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

有効

【コマンドモード】

Interface configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# negotiation auto
BS000D0B08C000(config-if)#
```

speed

ポートの通信速度を設定できます。

【コマンドの構文】

speed <option>

【パラメータ】

<option>　　オプションは次のとおりです。

10	10M に設定します。
100	100M に設定します。
auto	オートネゴシエーションに設定します。

【デフォルト設定】

auto

【コマンドモード】

Interface configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# speed 10
BS000D0B08C000(config-if)#
```

duplex

各ポートのデュプレックスモードを設定できます。
※ デュプレックスモードを auto 以外にすると、Auto MDI-X 機能も無効となります。

【コマンドの構文】

duplex <option>

【パラメータ】

<option>	オプションは次のとおりです。	
	auto	オートネゴシエーションに設定します。
	full	Full-Duplex に設定します。
	half	Half-Duplex に設定します。

【デフォルト設定】

auto

【コマンドモード】

Interface configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# duplex half
BS000D0B08C000(config-if)#
```

flow-ctrl

ポートのフロー制御を有効または無効にできます。

【コマンドの構文】

flow-ctrl
no flow-ctrl

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

有効

【コマンドモード】

Interface configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# flow-ctrl
BS000D0B08C000(config-if)#
```

show interfaces

各ポートの情報を表示できます。

【コマンドの構文】

show interfaces
show interfaces Ethernet <port>

【パラメータ】

<port>　　LAN ポート番号を指定します。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show interfaces Ethernet 1
FastEthernet1/1 is Up
  Hardware is Fast Ethernet
  Auto-duplex (Full), Auto Speed (100), 100BaseTX/FX
  pvid is 1, traffic-priority is low
  port-based authentication is forced authorized
  broadcast & multicast rate limit is 1 Mbps
  poe is on, poe-priority is low
  input:  102131 Bytes, 311 Unicast Packets, 685 Non-unicast Packets
          0 Packet Discards, 0 Packet Errors
          0 Undersized Packets, 0 Oversized Packets
  output: 19394 Bytes, 247 Unicast Packets, 3 Non-unicast Packets
          0 Packet Discards, 0 Packet Errors
BS000D0B08C000#
```

※ show interfaces は全 LAN ポートの情報を表示します。show interfaces Ethernet <port> は指定された LAN ポートの情報のみ表示します。

mirror

ほかのポートからトラフィックをモニタするようにポートを設定できます。

【コマンドの構文】

mirror <option>
no mirror

【パラメータ】

<option> オプションは次のとおりです。

source　トラフィックをモニタされるポート（ソースポート）を指定します。
monitor　トラフィックをモニタするポート（モニターポート）を指定します。
※ <option> を指定しない場合、ポートミラーリングを有効または無効にします。

【デフォルト設定】

無効

【コマンドモード】

Interface configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# mirror source
BS000D0B08C000(config-if)#

BS000D0B08C000(config-if)# mirror monitor
BS000D0B08C000(config-if)#
```

※ソースポートとモニターポートを設定しても mirror コマンドを実行しないと有効になりません。Mirror コマンドは任意のポートの Interface configuration モードで一度だけ実行してください。

メモ　Source Port/Monitored Port それぞれ 1 ポートのみ設定可能です。

show mirror

ポートミラーリングの状態を表示できます。

【コマンドの構文】

show mirror

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show mirror

Port Mirroring is: Disabled
  Source port: 8
  Monitor port: 7

BS000D0B08C000#
```

bcast-mcast-rate

ポートのブロードキャスト、マルチキャストストームコントロールを設定できます。

【コマンドの構文】

bcast-mcast-rate <threshold>
no bcast-mcast-rate

【パラメータ】

<threshold> 以下の通り各ポートのしきい値を指定します。

0	1Mbps
1	3Mbps
2	5Mbps

【デフォルト設定】

1Mbps

【コマンドモード】

Interface configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# bcast-mcast-rate 2
BS000D0B08C000(config-if)#
```

show bcast-mcast-rate

ストームコントロールのステータスを表示できます。

【コマンドの構文】

show bcast-mcast

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show bcast-mcast-rate

 Port    Rate Limit
======  ============
  1        1 Mbps
  2        1 Mbps
  3        1 Mbps
  4        1 Mbps
  5        1 Mbps
  6        1 Mbps
  7        1 Mbps
  8        5 Mbps

BS000D0B08C000#
```

system stat-reset

各ポートの統計情報をクリアします。

【コマンドの構文】

system stat-reset

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Grobal configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system stat-reset
BS000D0B08C000(config)#
```

リンクアグリゲーションコマンド

trunking add

ポートをトランクメンバに追加します。

【コマンドの構文】

trunking add <number>

【パラメータ】

<number>　　追加するトランク ID（1 ～ 4）を指定します。トランク ID が同じポートは同じトランクグループになります。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# duplex full
BS000D0B08C000(config-if)# trunking add 1
BS000D0B08C000(config-if)#
```

※ トランクグループのメンバに設定するポートは、Full-Duplex モードで動作させてください。
※ カスケードするスイッチのポート設定も Full-Duplex 固定モードに設定してください。また、接続するケーブルはクロスケーブルを使用してください。
※ BS-2016M は、ポート 1 ～ 8 のみトランクをサポートします。

trunking remove

ポートをトランクメンバから削除します。

【コマンドの構文】

trunking remove <number>

【パラメータ】

<number>　　削除するトランク ID（1 ～ 4）を指定します。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# trunking remove 1
BS000D0B08C000(config-if)#
```

lacp

アクティブな LACP（Link Aggregation Control Protocol）を有効にします。

【コマンドの構文】

lacp

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

無効（パッシブな LACP が有効です）

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# lacp
BS000D0B08C000(config-if)#
```

※ 手動によるトランクグループが作成されている場合、LACP は無効になります。

※ BS-2016M は、ポート 1 〜 8 のみトランクをサポートします。

no lacp

パッシブな LACP（Link Aggregation Control Protocol）を有効にします。

【コマンドの構文】

no lacp

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

有効

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# no lacp
BS000D0B08C000(config-if)#
```

※ 手動によるトランクグループが作成されている場合、LACP は無効になります。

※ BS-2016M は、ポート 1 〜 8 のみトランクをサポートします。

show trunking

トランクのグループ構成を表示します。

【コマンドの構文】

show trunking

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show trunking

LACP is passive

Trunk Id     Ports
--------     ----------------------------
 1           Fa1/2

 2

 3

 4

BS000D0B08C000#
```

MAC アドレスコマンド

mac-address-table static

MAC アドレステーブルを静的に設定できます。

【コマンドの構文】

mac-address-table static <macaddress> Ethernet <port>
no mac-address-table static <macaddress>

【パラメータ】

<macaddress>	静的に登録する MAC アドレスを指定します。2 バイト毎に「.」で区切られた 16 進数で入力します。ユニキャストアドレスのみ有効です。
<port>	MAC アドレスを登録する LAN ポートを指定します。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# mac-address-table static 0000.1111.2222 Ethernet 1
BS000D0B08C000(config)#
```

mac-address-table multicast-static

マルチキャスト MAC アドレステーブルを静的に設定できます。

【コマンドの構文】

mac-address-table multicaststatic <mac-addr> Ethernet <port>
no mac-address-table multicast-static <mac-addr>

【パラメータ】

<mac-addr>	マルチキャスト MAC アドレスを指定します。
<port>	LAN ポート番号を指定します。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

no mac-address-table dynamic

ダイナミックに学習した MAC アドレスを削除できます。

【コマンドの構文】

no mac-address-table dynamic <mac-addr>

【パラメータ】

<mac-addr>	削除するダイナミックに学習した MAC アドレスを指定します。2 バイト毎に「.」で区切られた 16 進数で入力します。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# no mac-address-table dynamic 000d.0b3c.119c
BS000D0B08C000(config)#
```

mac-address-table flush-dynamic

ダイナミックに学習した MAC アドレスを全て削除します。

【コマンドの構文】

mac-address-table flush-dynamic

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# mac-address-table flush-dynamic
BS000D0B08C000(config)#
```

show mac-address-table multicast-static

登録されたマルチキャスト MAC アドレスを表示できます。

【コマンドの構文】

show mac-address-table multicast-static

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show mac-address-table multicast-static

Destination Address   Address Type        Destination Port
-------------------   ----------------    ----------------
0100.5e01.0102        Static Multicast    FastEthernet1/1
BS000D0B08C000#
```

mac-address-table aging-time

MAC アドレス学習のエージング時間を設定できます。

【コマンドの構文】

mac-address-table aging-time <sec>

【パラメータ】

<sec>	MAC アドレス学習のエージング時間（秒）を指定します（10 〜 1000000）。

【デフォルト設定】

300（秒）

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# mac-address-table aging-time 300
BS000D0B08C000(config)#
```

show mac-address-table aging-time

MAC アドレス学習のエージング時間を表示できます。

【コマンドの構文】

show mac-address-table aging-time

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show mac-address-table aging-time

Aging Time: 300 sec

BS000D0B08C000#
```

show mac-address-table

MAC アドレステーブルを表示できます。

【コマンドの構文】

show mac-address-table

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show mac-address-table

Destination Address  Address Type  Destination Port
-------------------  ------------  ----------------
0000.1111.2222       Static        FastEthernet1/1
000c.6e04.0716       Dynamic       FastEthernet1/1
0011.0994.f5b9       Dynamic       FastEthernet1/1
0011.d882.60fc       Dynamic       FastEthernet1/1
BS000D0B08C000#
```

show mac-address-table dynamic

ダイナミックに学習した MAC アドレステーブルを表示できます。

【コマンドの構文】

show mac-address-table interface dynamic

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show mac-address-table dynamic

Destination Address  Address Type  Destination Port
-------------------  ------------  ----------------
000c.6e04.0716       Dynamic       FastEthernet1/1
0011.111f.79e1       Dynamic       FastEthernet1/1
0040.2697.f1dd       Dynamic       FastEthernet1/1
BS000D0B08C000#
```

show mac-address-table static

静的に設定した MAC アドレステーブルを表示できます。

【コマンドの構文】

show mac-address-table static

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show mac-address-table static

Destination Address  Address Type  Destination Port
-------------------  ------------  ----------------
0000.1111.2222       Static        FastEthernet1/1
BS000D0B08C000#
```

MAC アドレスフィルタコマンド

system mac-security enable

MAC アドレスフィルタを有効にします。

【コマンドの構文】

system mac-security enable

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

無効

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system mac-security enable
BS000D0B08C000(config)#
```

system mac-security disable

MAC アドレスフィルタを無効にします。

【コマンドの構文】

system mac-security disable

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

無効

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system mac-security disable
BS000D0B08C000(config)#
```

mac-address-table secure

MAC アドレスフィルタを設定します。

【コマンドの構文】

mac-address-table secure <mac-address> Ethernet <port>
no mac-address-table secure

【パラメータ】

<mac-address>	通信を可能にするクライアントの MAC アドレスを設定します。
<port>	適用する LAN ポート番号を設定します。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# mac-address-table secure 0011.2233.4455 Ethernet 1
BS000D0B08C000(config)#
```

show mac-address-table secure

MAC アドレスフィルタを表示します。

【コマンドの構文】

show mac-address-table secure

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show mac-address-table secure

Destination Address  Address Type  Destination Port
-------------------  ------------  ----------------
0011.2233.4455       Secure        FastEthernet1/1
BS000D0B08C000#
```

スパニングツリーコマンド

spanning-tree 1D

Spanning Tree Protocol(IEEE802.1d) をスイッチ全体で有効または無効にできます。

【コマンドの構文】

spanning-tree 1D
no spanning-tree

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

無効

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# spanning-tree 1D
BS000D0B08C000(config)#

BS000D0B08C000(config)# no spanning-tree
BS000D0B08C000(config)#
```

※スパニングツリーを使用したネットワークにスイッチを導入する場合、 必ずスイッチのスパニングツリーを Enable に設定してください。 スイッチのスパニングツリーが Disable に設定されている場合、 BPDU を転送しないため、 ネットワーク障害を引き起こす可能性があります。

spanning-tree 1w

Rapid Spanning Tree Protocol(IEEE802.1w) をスイッチ全体で有効または無効にできます。

【コマンドの構文】

spanning-tree 1w
no spanning-tree

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# spanning-tree 1w
BS000D0B08C000(config)#

BS000D0B08C000(config)# no spanning-tree 1w
BS000D0B08C000(config)#
```

※スパニングツリーを使用したネットワークにスイッチを導入する場合、 必ずスイッチのスパニングツリーを Enable に設定してください。 スイッチのスパニングツリーが Disable に設定されている場合、 BPDU を転送しないため、 ネットワーク障害を引き起こす可能性があります。

spanning-tree max-age

BPDU の最大エージング時間を設定できます。

【コマンドの構文】

spanning-tree max-age <seconds>

【パラメータ】

<seconds>	最大エージング時間を指定します（6 ～ 40（秒））。 次の関係を満たしている必要があります。 2 * (Bridge_Forward_Delay - 1.0 seconds) >= Bridge_Max_Age Bridge_Max_Age >= 2 * (Bridge_Hello_Time + 1.0 seconds) From 2 * (Bridge_Forward_Delay-1) to 2 * (Bridge_Hello_Time+1)

【デフォルト設定】

20（秒）

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# spanning-tree max-age 20
BS000D0B08C000(config)#
```

spanning-tree hello-time

ブリッジの Hello パケットの送信間隔時間を設定できます。

【コマンドの構文】

spanning-tree hello-time <seconds>

【パラメータ】

<seconds>	Hello パケットの送信間隔時間を指定します（1 ～ 10（秒））。 次の関係を満たしている必要があります。 2 * (Bridge_Forward_Delay - 1.0 seconds) >= Bridge_Max_Age Bridge_Max_Age >= 2 * (Bridge_Hello_Time + 1.0 seconds) From 1 to (Bridge_Max_Age/2)-1

【デフォルト設定】

2（秒）

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# spanning-tree hello-time 5
BS000D0B08C000(config)#
```

spanning-tree forward-time

ポートの状態を変更するまでの待機時間を設定できます。

【コマンドの構文】

spanning-tree forward-time <seconds>

【パラメータ】

<seconds>	状態を変更するまでの待機時間を指定します（4 ～ 30（秒））。 次の関係を満たしている必要があります。 2 * (Bridge_Forward_Delay - 1.0 seconds) >= Bridge_Max_Age Bridge_Max_Age >= 2 * (Bridge_Hello_Time + 1.0 seconds) From (Bridge_Max_Age/2) + 1 30 to

【デフォルト設定】

15（秒）

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# spanning-tree forward-time 15
BS000D0B08C000(config)#
```

spanning-tree priority

ブリッジの優先度を設定できます。

【コマンドの構文】

spanning-tree mst <instance> priority <priority>

【パラメータ】

<priority>	ブリッジのプライオリティ。有効な値は、4096、8192、12288、16384、20480、24576、28672、32768、36864、40960、45056、49152、53248、57344、61440 です。

【デフォルト設定】

32768（0x8000）

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# spanning-tree priority 4096
BS000D0B08C000(config)#
```

※ スパニングツリー（IEEE802.1d または IEEE802.1w）を有効にしてからプライオリティを設定してください。

spanning-tree forward-bpdu

STP 無効時、BPDU の転送を有効 / 無効に設定します。

【コマンドの構文】

spanning-tree forward-bpdu <state>

【パラメータ】

<state>	enable	STP 無効時、BPDU の転送を有効にします。
	disable	STP 無効時、BPDU の転送を無効にします。

【デフォルト設定】

disable（無効）

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# spanning-tree forward-bpdu enable
BS000D0B08C000(config)#
```

※ このコマンドは、BS-2108M および BS-2016M のみのコマンドです。

spanning-tree port-priority

ポートの優先度を設定できます。

【コマンドの構文】

spanning-tree port-priority <priority>

【パラメータ】

<priority>　ポートの優先度を指定します。有効な値は、0,16,32,48,64,80,96,112,128,144,160,176,192,208,224,240 です。

【デフォルト設定】

128

【コマンドモード】

Interface configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# spanning-tree port-priority 80
BS000D0B08C000(config-if)#
```

spanning-tree path-cost

ポートのパスコストを設定できます。

【コマンドの構文】

spanning-tree path-cost <cost>

【パラメータ】

<cost>　ポートのパスコストを指定します（1 ～ 65535）。

【デフォルト設定】

19

【コマンドモード】

Interface configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# spanning-tree path-cost 19
BS000D0B08C000(config-if)#
```

spanning-tree fastlink

ポートのファーストリンクを設定にします。ポートをパソコンに接続するとき有効にすると短時間でフレーム転送が可能になります。

【コマンドの構文】

spanning-tree fastlink
no spanning-tree fastlink

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

無効

【コマンドモード】

Interface configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# spanning-tree fastlink
BS000D0B08C000(config-if)#
```

show spanning-tree brief

STP 全般の設定を表示できます。

【コマンドの構文】

show spanning-tree mst configuration

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show spanning-tree brief

IEEE Spanning Tree is disabled

  ROOT ID     Priority 32768
              Address 000d.0b08.c000
              Hello Time 2 sec  Max Age 20 sec  Forward Delay  15 sec

  Bridge ID   Priority 32768
              Address: 000d.0b08.c000
              Hello Time 2 sec  Max Age 20 sec  Forward Delay 15 sec

Port                                 Designated
Name     Prio Cost       FastLink Sts  Cost  Bridge ID
-------- ---- ---------- -------- ---  ----- --------------
Fa1/1    128  19         Disabled FWD  0     000d.0b08.c000
Fa1/2    128  19         Disabled BLK  0     000d.0b08.c000
Fa1/3    128  19         Disabled BLK  0     000d.0b08.c000
Fa1/4    128  19         Disabled BLK  0     000d.0b08.c000
Fa1/5    128  19         Disabled BLK  0     000d.0b08.c000
Fa1/6    128  19         Disabled BLK  0     000d.0b08.c000
Fa1/7    128  19         Disabled BLK  0     000d.0b08.c000
Fa1/8    80   19         Enabled  FWD  0     000d.0b08.c000

BS000D0B08C000#
```

show spanning-tree interface Ethernet

STP のポート毎の設定を表示できます。

【コマンドの構文】

show spanning-tree interface Ethernet <port>

【パラメータ】

<port> LAN ポート番号を指定します。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show spanning-tree interface Ethernet 8
Interface Fa1/8 (port 8) in Spanning tree is FORWARDING
  Port priority 80, Port path cost 19, FastLink is Enabled
  Designated root has priority 32768, address 000d.0b08.c000
  Designated bridge has priority 32768, address 000d.0b08.c000

BS000D0B08C000#
```

VLAN コマンド

vlan database

このコマンドは VLAN データベースモードに入るために使います。

【コマンドの構文】

vlan database

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global Configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# vlan database
BS000D0B08C000(config-vlan)#
```

vlan

VLAN から VLAN ID の追加・削除ができます。

【コマンドの構文】

vlan <vlanID> <WORD>
no vlan <vlanID>

【パラメータ】

<vlanID> VLAN ID を指定します。
<WORD>　VLAN 名を指定します。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

vlan database

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-vlan)# vlan 10 vlan10
BS000D0B08C000(config-vlan)#
```

switchport access vlan

ポートを VLAN テーブルへの登録とタグポートまたはアンタグポートとして設定できます。

【コマンドの構文】

switchport access vlan {tagged | untagged} <VLAN ID>
no switchport access vlan <VLAN ID>

【パラメータ】

tagged	ポートをタグポートとして設定します。
untagged	ポートをアンタグポートとして設定します。
<vlanID>	VLAN ID を指定します。

【デフォルト設定】

全ポート「untagged」、VLAN ID 1

【コマンドモード】

Interface configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# switchport access vlan tagged 1
BS000D0B08C000(config-if)#
```

switchport access native

ポートの PVID を設定できます。

【コマンドの構文】

switch port access native <pvid>

【パラメータ】

<pvid>	ポートに割り当てる PVID を指定します。

【デフォルト設定】

1

【コマンドモード】

Interface configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# switchport access native 2
BS000D0B08C000(config-if)#
```

※各ポートでは設定した PVID と同じ番号の VLAN メンバに所属するようにしてください。

show vlan brief

VLAN 情報を表示できます。

【コマンドの構文】

show vlan brief

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show vlan
VLAN Name                             Status    Ports
---- -------------------------------- --------- --------------------
1    Default                          active    Untagged:
                                          Fa1/1,Fa1/2,Fa1/3,Fa1/4,
                                                Fa1/5,Fa1/6,Fa1/7
                                                Tagged:
                                                Fa1/8
10   vlan10                           active
BS000D0B08C000#
```

show vlan vlan

VLAN 情報を表示できます。

【コマンドの構文】

show vlan vlan <vlanID>

【パラメータ】

<vlanID>	VLAN ID を指定します。指定しない場合、現在設定されている VLAN を表示します。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show vlan vlan

Current Vlan ID List: 1,10

BS000D0B08C000#

-----------------------------------------------

BS000D0B08C000# show vlan vlan 1

Untagged port members: 1-7
Tagged port members: 8

BS000D0B08C000#
```

show vlan pvid

PVID を表示できます。

【コマンドの構文】

show vlan pvid

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
Port      PVID
----------------
 1      1
 2      1
 3      1
 4      1
 5      1
 6      1
 7      1
 8      2
BS000D0B08C000#
```

QoS コマンド

system qos

QoS 機能を有効 / 無効に設定します。

【コマンドの構文】

system qos <state>

【パラメータ】

<state>	enable	QoS 機能を有効にします。
	disable	QoS 機能を無効にします。

【デフォルト設定】

enable（有効）

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system qos enable
BS000D0B08C000(config)#
```

※ QoS を有効にすると、ポートのフローコントロールは自動的に無効になります。

system tos/diff

ToS/DSCP（Diffserv）による優先度制御を有効 / 無効に設定します。

【コマンドの構文】

system tos/diff <state>

【パラメータ】

<state>	enable	ToS/DSCP（Diffserv）による優先度制御を有効にします。
	disable	ToS/DSCP（Diffserv）による優先度制御を無効にします。

【デフォルト設定】

enable（有効）

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system tos/diff enable
BS000D0B08C000(config)#
```

cos

IEEE802.1p で定義されたトラフィッククラスを 4 段階のプライオリティキューに割り当てます。

【コマンドの構文】

cos <traffic-class> <priority-queue>

【パラメータ】

<traffic-class>	トラフィッククラスを指定します。(0-7)
<priority-queue>	割り当てる優先度を指定します。(Low：最低の優先度、normal：通常の優先度、high：高い優先度、highest：最高の優先度)

【デフォルト設定】

traffic class	priority queue
0, 3	low
1, 2	normal
4, 5	high
6, 7	highest

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# cos 5 high
BS000D0B08C000(config)#
```

traffic-priority

ポートの優先度を設定できます。本項目はプライオリティを持たないアンタグフレームに適用する優先度です。

【コマンドの構文】

traffic-priority <priority>

【パラメータ】

<priority>	low または highest を設定します。

【デフォルト設定】

各ポート low に設定されています

【コマンドモード】

Interface configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# traffic-priority highest
BS000D0B08C000(config-if)#
```

Layer3-mode

IP パケットに対する優先処理を DSCP に基づいて行うか、TOS に基づいて行うかを設定します。

【コマンドの構文】

layer3-mode <mode>

【パラメータ】

<mode>	Diffserv または TOS を設定します。Diffserv は DSCP を元に優先処理を行います。TOS は IP Precedence を元に優先処理を行います。

【デフォルト設定】

TOS に設定されています

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# layer3-mode TOS
BS000D0B08C000(config)#
```

diffserv

DSCP 値を 4 段階のプライオリティに割り当てます。

【コマンドの構文】

diffserv <DSCP> <priority-queue>

【パラメータ】

<DSCP>	0-63 の DSCP 値を指定します。
<priority-queue>	割り当てる優先度を指定します。(Low：最低の優先度、normal：通常の優先度、high：高い優先度、highest：最高の優先度)

【デフォルト設定】

DSCP 0-31 は low、DSCP 32-63 は normal

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# diffserve 5 normal
BS000D0B08C000(config)#
```

tos

TOS（IP precedence）値を 4 段階のプライオリティに割り当てます。

【コマンドの構文】

tos <tos> <priority-queue>

【パラメータ】

<tos>	0-7 の TOS(IP precedence) 値を指定します。
<priority-queue>	割り当てる優先度を指定します。(Low：最低の優先度、normal：通常の優先度、high：高い優先度、highest：最高の優先度)

【デフォルト設定】

low

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# tos 5 low
BS000D0B08C000(config)#
```

queue-mode

4 レベルプライオリティキューのスケジューリング方法を指定します。

【コマンドの構文】

queue-mode <mode>

【パラメータ】

<mode>	wrr：Weighted Round Robin によるキュースケジューリングを行います。 strict：優先度の高いキューから順番に出力されます。

【デフォルト設定】

wrr

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# queue-mode strict
BS000D0B08C000(config)#
```

show cos

CoS 情報を表示できます。

【コマンドの構文】

show cos

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show cos

TrafficClass  Priority
============  ========
      0       low
      1       low
      2       normal
      3       normal
      4       high
      5       high
      6       highest
      7       highest

BS000D0B08C000#
```

show layer3-mode

IP パケットの優先度処理方法が表示されます。

【コマンドの構文】

show layer3-mode

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show layer3-mode

Layer 3 priority mode is TOS

BS000D0B08C000#
```

show diffserv

DiffServ(DSCP) の設定内容を表示できます。

【コマンドの構文】

show diffserv

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged configuration command

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show diffserve
DSCP  Priority
====  ========
 0    low
 1    low
 2    low
 3    low
 4    low
 5    normal
 6    low
 7    low
 8    low
 9    low
10    low

<<<　途中省略　>>>

57    normal
58    normal
59    normal
60    normal
61    normal
62    normal
63    normal

BS000D0B08C000#
```

show tos

TOS(IP precedence) の設定内容を表示できます。

【コマンドの構文】

show tos

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show tos

TOS-IP precedence       Priority
====================    ========
Routine-000              low
Priority-001             low
Immediate-010            low
Flash-011                low
Flash Override-100       low
CRITIC/ECP-101           low
Internet Control-110     low
Network Control-111      low

BS000D0B08C000#
```

show queue-mode

キュースケジューリングの設定内容を表示できます。

【コマンドの構文】

show queue-mode

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show queue-mode

Queue scheduling mode is Strict

BS000D0B08C000#
```

Radius コマンド

※ ここで設定する内容は、スイッチに対するログイン時の認証設定です。IEEE802.1X を使ったポートセキュリティ設定は、「ポートセキュリティコマンド」(P.137) で設定をおこなってください。

system radius server-ip

Radius サーバの IP を設定できます。（コマンド設定できる Radius サーバは 1 台のみです）

【コマンドの構文】

system radius server-ip <ip>

【パラメータ】

<ip>	Radius サーバの IP アドレスを設定します。

【デフォルト設定】

0.0.0.0

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system radius server-ip 192.168.10.10
BS000D0B08C000(config)#
```

system radius shared-secret

Radius のシークレットキーを設定します。

【コマンドの構文】

system radius shared-secret <string>

【パラメータ】

<string>	シークレットキーを設定します。(半角英数字 32 文字まで)

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system radius shared-secret abcde
BS000D0B08C000(config)#
```

system radius authen-mode

ユーザログイン時の認証モードを設定します。

【コマンドの構文】

system radius authen-mode <mode>

【パラメータ】

<mode>　local:　スイッチ内部でのみ認証を行います。
local-then-remote:
最初にスイッチで認証を行い認証失敗した場合は RADIUS 認証を行います。
remote: RADIUS 認証のみ行います。

【デフォルト設定】

local

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system radius authen-mode local
BS000D0B08C000(config)#
```

※ RADIUS の設定内容は show system コマンドで確認できます。

ポートセキュリティコマンド

dot1x accounting

Accounting 機能を有効 / 無効に設定します。

【コマンドの構文】

dot1x accounting <state>

【パラメータ】

<state>	enable	Accounting 機能を有効にします。
	disable	Accounting 機能を無効にします。

【デフォルト設定】

enable（有効）

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B97200C(config)# dot1x accounting enable
BS000D0B97200C(config)#
```

dot1x serverenable

プライマリ認証サーバを有効 / 無効に設定します。

【コマンドの構文】

dot1x serverenable <state>

【パラメータ】

<state>	enable	プライマリ認証サーバを有効にします。
	disable	プライマリ認証サーバを無効にします。

【デフォルト設定】

enable（有効）

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# dot1x serverenable enable
BS000D0B08C000(config)#
```

dot1x server-ip

パソコンなどをポートで認証するときの認証サーバ（プライマリ）の IP アドレスを設定します。

【コマンドの構文】

dot1x server-ip <ip-address>

【パラメータ】

<ip-address>　　プライマリ認証サーバの IP アドレスを指定します。

【デフォルト設定】

0.0.0.0

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# dot1x server-ip 192.168.1.100
BS000D0B08C000(config)#
```

dot1x server-port

プライマリ認証サーバのポート番号を設定します。

【コマンドの構文】

dot1x server-port <port_number>

【パラメータ】

<port_number>　　プライマリ認証サーバのポート番号を指定します。

【デフォルト設定】

1812

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# dot1x server-port 2000
BS000D0B08C000(config)#
```

dot1x shared-secret

プライマリ認証サーバの Shared Secret を設定します。

【コマンドの構文】

dot1x shared-secret <string>

【パラメータ】

<string>	プライマリ認証サーバの shared secret を指定します。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# dot1x shared-secret buffalo_secret
BS000D0B08C000(config)#
```

dot1x secserverenable

セカンダリ認証サーバを有効 / 無効に設定します。

【コマンドの構文】

dot1x secserverenable <state>

【パラメータ】

<state>	enable	セカンダリ認証サーバを有効にします。
	disable	セカンダリ認証サーバを無効にします。

【デフォルト設定】

disable(無効)

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# dot1x secserverenable disable
BS000D0B08C000(config)#
```

dot1x sec-server-ip

パソコンなどをポートで認証するときの認証サーバ（セカンダリ）の IP アドレスを設定します。

【コマンドの構文】

dot1x sec-server-ip <ip-address>

【パラメータ】

<ip-address>　セカンダリ認証サーバの IP アドレスを指定します。

【デフォルト設定】

0.0.0.0

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# dot1x sec-server-ip 192.168.0.10
BS000D0B08C000(config)#
```

dot1x sec-server-port

セカンダリ認証サーバのポート番号を設定します。

【コマンドの構文】

dot1x sec-server-port <port_number>

【パラメータ】

<port_number>　セカンダリ認証サーバのポート番号を指定します。

【デフォルト設定】

1812

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# dot1x sec-server-port 2000
BS000D0B08C000(config)#
```

dot1x sec-shared-secret

セカンダリ認証サーバの Shared Secret を設定します。

【コマンドの構文】

dot1x sec-shared-secret <string>

【パラメータ】

<string> セカンダリ認証サーバの shared secret を指定します。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# dot1x sec-shared-secret buffalo_secret
BS000D0B08C000(config)#
```

dot1x timeout

認証サーバから応答がない場合のタイムアウト時間を設定します。

【コマンドの構文】

dot1x timeout <timeout>

【パラメータ】

<timeout> 認証サーバのタイムアウト時間(秒単位)を指定します。

【デフォルト設定】

5

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# dot1x timeout 6
BS000D0B08C000(config)#
```

dot1x retry_count

認証サーバから応答がない場合のリトライ回数を設定します。

【コマンドの構文】

dot1x retry_count <retry_count>

【パラメータ】

<retry_count>　　リトライ回数を指定します。(入力範囲:1 ～ 10)

【デフォルト設定】

3

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# dot1x retry_count 5
BS000D0B08C000(config)#
```

dot1x re_authenperiod

認証済みのクライアントに再認証を要求するまでの時間を設定します。

【コマンドの構文】

dot1x re_authenperiod <period>

【パラメータ】

<period>　　再認証を要求するまでの時間を指定します。

【デフォルト設定】

3600(秒)

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# dot1x re_authenperiod 60
BS000D0B08C000(config)#
```

※ サーバから Session-Timeout が指定されている場合、サーバの設定にしたがいます。

dot1x termination-action

認証サーバから指定された Termination-Action 属性に従うようにするかどうか設定します。ただし、サーバから Termination-Action が通知されている場合に限ります。

【コマンドの構文】

dot1x termination-action <state>

【パラメータ】

<state>	enable	認証サーバから指定された Termination-Action 属性に従うようにします。
	disable	認証サーバから指定された Termination-Action 属性を無視します。

【デフォルト設定】

disable（無効）

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# dot1x termination-action enable
BS000D0B08C000(config)#
```

dot1x port-control

ポート毎にポートセキュリティを有効 / 無効にします。

【コマンドの構文】

dot1x port-control <state>

【パラメータ】

<state>	enable	ポートごとのポートセキュリティを有効にします。
	disable	ポートごとのポートセキュリティを無効にします。

【デフォルト設定】

disable（無効）

【コマンドモード】

Interface configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# dot1x port-control Enabled
BS000D0B08C000(config)#
```

show dot1x

ポートセキュリティに関する情報を表示します。

【コマンドの構文】

show dot1x

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show dot1x

Authenticator Server IP is 0.0.0.0
Authenticator shared secret is
Reauthentication Timer is 3600 seconds

Port     802.1x Port Control
====     ======================
1/1      Disabled
1/2      Disabled
1/3      Disabled
1/4      Disabled
1/5      Disabled
1/6      Disabled
1/7      Disabled
1/8      Disabled

BS000D0B08C000#
```

SNTP コマンド

system sntp enable/disable

SNTP 機能を有効／無効にします。

※ SNTP を使用しない場合、スイッチが起動したときに 1900 年 1 月 1 日 9 時 0 分 0 秒が設定され、この日付を起点にカウントされます。

【コマンドの構文】

system sntp enable
system sntp disable

【パラメータ】

enable	SNTP 機能を有効にします。
disable	SNTP 機能を無効にします。

【デフォルト設定】

disable（無効）

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system sntp enable
BS000D0B08C000(config)#
```

system sntp server-ip

NTP サーバの IP アドレスを設定します。

【コマンドの構文】

system sntp server-ip <ip_address>

【パラメータ】

<ip-address>	NTP サーバの IP アドレスを指定します。

【デフォルト設定】

0.0.0.0

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system sntp server-ip 192.168.1.48
BS000D0B08C000(config)#
```

system sntp max-resync-time

NTP サーバに時刻を問い合わせる間隔を時間単位で設定します。

【コマンドの構文】

system sntp max-resync-time <time>

【パラメータ】

<time>	NTP サーバに時刻を問い合わせる間隔（時間）を指定します。（1 ～ 24）

【デフォルト設定】

24（時間）

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system sntp max-resync-time 20
BS000D0B08C000(config)#
```

system sntp time-zone

タイムゾーンを設定します。

【コマンドの構文】

system sntp time-zone <time_zone>

【パラメータ】

<time_zone>　　タイムゾーンを指定します。

設定できる数値は、以下の通りで、それぞれ右のタームゾーンに対応します。

0	CN (Asia/Hong_Kong)
1	DE (Europe/Berlin)
2	FR (Europe/Paris)
3	GB (Europe/London)
4	JP (Asia/Tokyo)
5	KR (Asia/Seoul)
6	TW (Asia/Taipei)
7	US (America/New_York)
8	US (America/Chicago)
9	US (America/Phoenix)
10	US (America/Los_Angeles)
11	US (America/Anchorage)
12	GMT-12
13	GMT-11
14	GMT-10 (Hawaii)
15	GMT-9 (Alaska)
16	GMT-8 (Pacific Standard Time)

17	GMT-7
18	GMT-6 (Central Standard Time)
19	GMT-5 (Eastern Standard Time)
20	GMT-4 (Atlantic Time)
21	GMT-3 (Greenland)
22	GMT-2 (Atlantic Standard Time)
23	GMT-1 (Azores)
24	GMT (London)
25	GMT+1 (Rome/Paris)
26	GMT+2 (Athens)
27	GMT+3 (Nairobi)
28	GMT+4 (Abu Dhabi)
29	GMT+5 (Islamabad)
30	GMT+6 (Astana)
31	GMT+7 (Bangkok)
32	GMT+8 (Beijing/Shanghai)
33	GMT+9 (Tokyo/Seoul)［デフォルト］
34	GMT+10 (Sydney/Vladivostok)
35	GMT+11 (New Caledonia)
36	GMT+12 (Wellington)

【デフォルト設定】

4	JP(Asia/Tokyo)

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system sntp time-zone 0
BS000D0B08C000(config)#
```

システムログコマンド

※ システムログコマンドを使うには、別途シスログサーバが必要です。

system log remote-enable / remote-disable

ログ情報のシスログサーバへの転送を有効にします。

【コマンドの構文】

system log remote-enable
system log remote-disable

【パラメータ】

remote-enable	ログ情報のシスログサーバへの転送を有効にします。
remote-disable	ログ情報のシスログサーバへの転送を無効にします。

【デフォルト設定】

remote-disable（無効）

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system log remote-enable
BS000D0B08C000(config)#
```

system log ip

シスログサーバの IP アドレスを設定します。

【コマンドの構文】

system log ip <ip-address>

【パラメータ】

<ip-address>	シスログサーバの IP アドレスを指定します。

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system log ip 192.168.1.250
BS000D0B08C000(config)#
```

system log with-name

シスログサーバへ転送するログ情報に、スイッチ名を含めます。

【コマンドの構文】

system log with-name

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system log with-name
BS000D0B08C000(config)#
```

system log without-name

シスログサーバへ転送するログ情報に、スイッチ名を含めません。

【コマンドの構文】

system log without-name

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system log without-name
BS000D0B08C000(config)#
```

system log config-facility

設定に関するログの中で、シスログサーバへ転送するログの種類（notice/information）を設定します。

【コマンドの構文】

system log config-facility

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system log config-facility
BS000D0B08C000(config)#
```

system log auth-facility

認証に関するログの中で、シスログサーバへ転送するログの種類（notice/information）を設定します。

【コマンドの構文】

system log auth-facility

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system log auth-facility
BS000D0B08C000(config)#
```

system log device-facility

デバイスに関するログの中で、シスログサーバへ転送するログの種類（notice/information）を設定します。

【コマンドの構文】

system log device-facility

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system log device-facility
BS000D0B08C000(config)#
```

system log system-facility

システムに関するログの中で、シスログサーバへ転送するログの種類（notice/information）を設定します。

【コマンドの構文】

system log system-facility

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config)# system log system-facility
BS000D0B08C000(config)#
```

show log

スイッチのシステムログを表示できます。

【コマンドの構文】

show log

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Privileged EXEC

【コマンドの例】

```
Not Defined# show log

(1)000:00:01:13 Cold start
(2)000:00:41:45 Port 2 link up

Not Defined#
```

PoE コマンド

※ このコマンドは、BS-POE-2008M のみのコマンドです。

power-inline

ポート毎に PoE 給電を有効または無効に設定します。無効にしても通常のフレーム転送は行います。

【コマンドの構文】

power-inline
no power-inline

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

有効

【コマンドモード】

Interface configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# power-inline
BS000D0B08C000(config-if)#
```

power priority

ポートの PoE 優先度を設定します。

【コマンドの構文】

power-priority <level>

【パラメータ】

<level> low: 電力は優先的に供給されません。電力が残っている場合には供給されます。
high: 電力を優先的に給電します。

【デフォルト設定】

全ポート low

【コマンドモード】

Interface configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# power-priority high
BS000D0B08C000(config-if)#
```

poe margin-mode

PoE のマージン電力を設定します。PoE で供給できる電力の残りが、ここで設定したマージンより少なくなった場合、PoE 機器を接続しても PoE で給電できなくなります。

【コマンドの構文】

poe margin-mode <mode>

【パラメータ】

<mode>	10：	10W
	15：	15W
	20：	20W

【デフォルト設定】

10（W）

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000(config-if)# poe margin-mode 10
BS000D0B08C000(config-if)#
```

show poe

PoE に関する情報を表示します。

【コマンドの構文】

show poe

【パラメータ】

なし

【デフォルト設定】

なし

【コマンドモード】

Global configuration

【コマンドの例】

```
BS000D0B08C000# show poe

PoE System Available Power is 60000 mw
Total Maximum Power is 60000 mw
Power Used is 0 mw
Power Remaining is 60000 mw

Port  On/Off  Status       PD_Class Prioriy Power(mw) Current(mA)
-----------------------------------------------------------------
 1    On      Not Powered        0     Low         0           0
 2    On      Not Powered        0     Low         0           0
 3    On      Not Powered        0     Low         0           0
 4    On      Not Powered        0     Low         0           0
 5    On      Not Powered        0     Low         0           0
 6    On      Not Powered        0     Low         0           0
 7    On      Not Powered        0     Low         0           0
 8    On      Not Powered        0     High        0           0

BS000D0B08C000#
```